

にちぎん

2016 NO.47

秋



対談 守・破・創

宮部みゆき 小説家

黒田東彦 日本銀行総裁

小説は、読まれて、受け取る人がいてこそ、完成する

インタビュー 扉を開く

羽生善治 将棋棋士

「この一手」を決断する思考のプロセス

地域の底力

鶴岡市 山形県

山形県鶴岡市の未来を担うのは受け継がれてきた豊かな食文化

エッセイ “おかね”を語る

久住昌之 漫画家 お金の家族

ある出版社から「お金（硬貨）をキャラクターにした子供向け絵本はできないでしょうか？」という依頼が来た。十円玉や百円玉をかわいいキャラにできないかというのだ。

お金は小さな子でもみんな知っているから、親しみを持つのではないかとこの話だ。

だがそれらには当然金額という価値がついて回る。どうしても高額な方がエライとか、そういう話になりがちだ。それは子供に対して、現実過ぎて夢の無い話になってしまう。そこを何とかできないか、というのだ。

ボクは机の上に一円玉から五百円玉まで並べて、手に取ったり裏返したり、改めてじっくり見た。そして、これらが家族のように思えてきた。

五百円はサラリーマンパパ、百円は老人ホームで働くママ。五十円はオシャレが気になる女子高生で、十円はサッカー好きな小学生のお兄さん。そう決めるとそんな風に見えてくる。楽しくなってきた。ここで気がついたのだが、一円玉と五円玉は、自動販売機に入れても戻ってくる。そこでも思いついた。自販機を社会に見立て、そこに参加しない一円を幼稚園入園前の子ども、五円を引退して家にいるおじいさんにしたらどうか。

このおじいさんと幼児を主人公にしよう。

五円はゴエジイ、一円は四兄弟、タロウ、ジロベ、サンタ、タマミ。主人公はこの五人だ。ゴエジイは、七十歳になった時、幾つもの特殊能力が目覚めるが、それを孫たちの夢のためだけに使お



絵・江口修平

お金の家族

久住昌之

うと考える。他の家族に教えると、皆自分の利益や成績や人気や便利のために、それを利用したがると思ったからだ。

お話はその四人が朝、会社やパートや学校に行ってしまったあとの家で始まる。でもゴエジイは孫たちに「このことは他の人（家族）には内緒だぞ」と言っていて、いろいろな場所に冒険に連れて行ってくれる。食べられる花の木、地底洞窟の温泉、お化け屋敷、恐竜島。海にはカードの海賊も出そう。

ゴエジイの五円玉の穴は望遠鏡になり、水や光線を発射する。模様の若葉は取り外して、一円玉たちの背中に付けると、空を飛ぶことができる。

ボク自身、普段、金銭の話は苦手だ。でも、こうして見つめ直していくうち、硬貨に対して長いこと忘れていた親しみを思い出した。小学校の時、百円玉のデザインが今のものに変わった。新硬貨は「0」の文字の上下が少し斜めにカットされている字体で、「カッコヨクになったな」と思った。

五円玉は、よく見ると工業農業水産業のイメージがデザインされていて、さらに双葉は日本の山林を思わせ、物知りな老賢者の雰囲気もある。一円玉の軽さとシンプルなデザインも、無垢な感じがして、かわいい。

それぞれのコインに、個性や、味わいが見えてくる。一家九枚を並べてみると、昔の大家族のように見えて、なんだかのんびり楽しそうだ。小銭入れは彼らの寝袋のようだ。

くすみ・まさゆき●1958年東京都生まれ。法政大学社会学部卒。1999年、実弟・久住卓也氏と組んだマンガユニット「Q.B.B.」名義で描いた『中学生日記』で、第45回文藝春秋漫画賞受賞。1997年、谷口ジロー氏と組んで描いたマンガ『孤独のグルメ』は、現在イタリア他計10カ国で翻訳出版されている。2012年にTVドラマ化され、現在season5。劇中全ての音楽の制作演奏をし、脚本を監修、最後にレポーターとしても出演。弟の久住卓也氏との共作児童書『1円くんと五円じい』（ポプラ社）はシリーズ5巻。





2 エッセイ／“おかね”を語る
お金の家族 漫画家 久住昌之



4 インタビュー／扉を開く
羽生善治 将棋棋士
「この一手」を決断する思考のプロセス

9 地域の底力——山形県鶴岡市
山形県鶴岡市の未来を担うのは
受け継がれてきた豊かな食文化



16 対談／守・破・創
宮部みゆき 小説家
黒田東彦 日本銀行総裁
小説は、読まれて、受け取る人がいてこそ、完成する

22 貨幣の世界——③ [形 その2]
古代から近世の東アジア 後編



24 FOCUS → BOJ ⑱ 「金融広報中央委員会」の仕事
全国規模の調査とイベントで
「金融リテラシー」の向上に取り組む

日本銀行のレポートから

28 「経済・物価情勢の展望」(展望レポート) —2016年7月—

30 「地域経済報告」(さくらレポート) —2016年7月—

地域の視点「各地域における消費関連企業の販売動向と販売戦略・価格設定行動」

34 トピックス
金融高度化セミナー(再チャレンジ支援)を開催ほか

表紙のことは



日本銀行大分支店は、太平洋戦争末期の昭和二十年（一九四五）七月に、事務所として設立されました。その後、大分県出身の第一八代一萬田総裁就任後の昭和二十三年（一九四八）二月、支店に昇格しました。

初代の大分支店の建物は、大分駅前にある当時大分銀行が所有していたビルを、日本銀行が買い上げたものでした。表紙の現店舗は、昭和四十五年（一九七〇）十月、新築移転された二代目となります。建物が老朽化していたほか、大分県経済の発展に伴う銀行券の受払い規模の拡大により金庫が手狭となっていたこと等から、長浜町に移転しました。

外装はタイル張り、ブロンズ（茶色系）の色調で統一し、中央銀行の建物として風格と重厚さに配慮して建てられました。大分支店は、大分の街に溶け込みながら、これからも地元経済を支え続けていきます。

将棋棋士

羽生善治

Yoshiharu Habu

小宇宙のように深くて広い、ハーマスの盤上での戦い——将棋棋士・羽生善治氏は一五歳でプロデビューしてから数々の大記録を打ち立て、四五歳になった今でもトップに君臨し続けている。緊迫した勝負のさなか、どのように思考をめぐらし、最善手を選択するのか。進化するコンピュータ将棋に對し、どう向き合つか。勝ち続ける羽生氏の強さの原点、頂点を極めても飾らない人柄が垣間見えるインタビューとなった。

「この一手」を決断する思考のプロセス

「信用」があれば、勝負に有利に働く

——羽生さんは一五歳のデビュー

ーから破竹の勢いで勝ち進み、二五歳で七冠を制し、四五歳の現在も第一人者の座に君臨されています。俊英ぞろいの棋士の生きる世界とは、どのようなものでしょうか。

羽生 現役のプロ棋士は一六〇人ほどいます。毎年、新人が四人ほど生まれ、それと同じぐらいの棋士が引退するので、全体の人数はあまり変わりません。そのなかで私がよく対戦する相手は一五人から二〇人ぐらいです。とくに、谷川浩司先生（十七世名人）、佐藤康光さん（永世棋聖）、森内俊之さん（十八世名人）の三人とは、公式戦だけでそれぞれ一〇〇局以上指しています。棋士の世界には人事異動も転職もないので、基本的に限られた人たちと何十年も競争している、

というところはありますね。

——かつて大山康晴十五世名人は「棋士は仲間に信用されることが大切だ」とおっしゃったそうですが、ここでの「信用」とは、どういうことでしょうか。

羽生 棋士の仲間同士の「格付け」みたいなものです。「あいつは強い」という信用があれば、普通なら悪手となる手を指しても、相手のほうが「何か深い考えがあるんじゃないか」と疑心暗鬼になって、勝負に有利に働くことがあります。対局中、棋士は盤を挟んでお互いの考えが全てわかるわけではありません。半分くらいは一致しても、残りは一一致していない部分がある。その一致していないところでどれだけ相手に信用されているかが、大きな影響を与えるんです。——定跡通りのところでは、棋

士は同じ考えをしているのですか。

羽生 そこは同じですが、定跡やセオリーがない未知の局面でどういう判断や思考をしているのかをお互いに推測しているわけです。そのときに信用されているかどうか、強さを認められているかどうかは非常に大きな要素になりますね。

たとえば、一つの局面で新しいアイデア——「^{あて}新手」が指されたとします。将棋の場面ですから、誰が指しても同じ手なのですが、信用されている棋士が指した場合は真似されるんです。将棋の世界には特許や著作権がないので、誰でも自由に真似ができる。信用のある人が良い手を指せば、すぐにみんなが真似をして、定跡とされていたものが変わったります。一方で、あまり信用のない人の手は、それが新しいアイデアであっても、埋もれてしまうことがあるんです。

——羽生さんが「あつ、間違った」と、指し手でミスをすることはありますか。

羽生 あります。ミスのない将棋というのは非常に難しいですね。私の経験には一局もないと思いますが、将棋はミスをしたら必ず負けるというわけでもありません。こちらのミスが相手のミスを誘発することもあります。正しい選択をしていれば必ず良い結果になるとも限らない。そこはマーケットの動きにも似ていると思いますが、将棋には論理やロジックだけでは割り切れない「機微」みたいなものがあるんです。もちろん、その大前提としてこれまでの体系的な積み上げや思考があるのですが、そこに偶然性がプラスされるといえるのか、人には推し量れないものもあるのではないかと気がします。将棋を長くやっている、「わからない」ということがよくわかってくるんです。

直感・読み・大局観を駆使して考える

——ご著書で「棋士は『直感』と『読み』と『大局観』を使いこなしながら対局に臨んでいる」と述べておられます。思考プロセスのなかで、この三つをどのように駆使するのでしょうか。

羽生 最初は「直感」を使います。将棋は、一つの局面で八通りぐらいの可能性があると云われますが、私は最初にパッと見た段階で二つないし三つの選

択肢に絞ります。残りの可能性は、見た瞬間に捨てているということになります。

そこから今度は「読み」に入ります。展開をシミュレーションするように、直感で絞り込んだ選択肢から先へ先へと手を読んでいく。ただ、ここですぐに「数の爆発」という問題にぶつかってしまいます。三つに選択肢を絞ったとしても、その先の可能

性は足し算ではなく、掛け算でどんどん増えていくわけです。二手先を読む場合は三×三ですが、九手読むだけで済みますが、五手先、一〇手先となると、三の五乗とか三の一〇乗という凄いい数になってきます。こうなると、選択肢のどれがいいか判断できない。そこで「大局観」に頼ることになります。

——具体的に手を読むだけでなく、全体を俯瞰したうえで判断する、ということですか。

羽生 そうです。「木を見て森を見ず」という言葉がありますが、大局観はその逆に、森全体を見るように局面を捉えます。そうして、ここでは攻めたらいいのか守ったらいいのか、それともじっとしているほうがいいのかという方向性を決めるのです。

ですから、思考のプロセスとしては、最初に直感で手を絞り、具体的に読んでみる。わからなくなったら、過去から今までの流れを見てきて、方向性がどうなるかと未来を予想する。あるいは、現在から見て未来はこういう形になるんじゃないかと思

い描くのです。そういう大局観に基づいて、仮に「こうやって詰んで勝つんじゃないか」と思ったら、また「読み」に戻り、今ある局面と最後の部分をくっつける作業をします。

——大局観で「読み」のイメージまで浮かんでくることがある

と。
羽生 終盤戦でゴールが近くなると、こういうふうになるんじゃないかとイメージしやすくなると思います。けれども、最初のうちはそこまで見えないので、未来の形を思い描くよりも、一番初めから流れを振り返ったりして、過去から見て次に何をやるかという視点で考えることが多いです。

——棋士の世代によって、「直感」「読み」「大局観」の三つの比重が変わることはありますか。

羽生 若いときは圧倒的に「読み」を中心に考えることが多いと思います。記憶する力、計算する力、反射神経の良さが若いときの強みですから、そこを前面に出して対局に臨みます。しかし年齢を重ねるにつれて、少



はぶ・よしはる ● 1970年、埼玉県生まれ。6歳で将棋を覚える。82年、12歳で二上達也九段に師事し、プロ棋士の養成機関・奨励会に入会。85年、15歳でプロ四段に昇段し、史上三人目の中学生棋士としてデビュー。89年、19歳で初タイトルとなる竜王位を獲得。96年、25歳で王将位を獲得し、名人、竜王、棋聖、王位、王座、棋王と合わせて前人未到の七冠制覇を達成した。2008年には永世名人（十九世名人）の資格を得る。現在、永世棋聖、永世王位、名誉王座、永世棋王、永世王将の永世称号の資格も有する。通算タイトル獲得も94期を数え、歴代トップ。著書に『羽生の頭脳1～10』（日本将棋連盟）、『羽生善治 闘う頭脳』（文春文庫）、『直感力』（PHP新書）、『決断力』『大局観』（ともに角川書店）などがある。

しずつ直感、大局観の比重が高くなっていくのが普通の流れです。直感や大局観を身につけると、「ここは考えなくてもいいな」と思考を省略化できるようになります。「今は攻めるべきだ」ということを論理ではなく、パッと判断できれば、「守る手」は考える必要はありません。感覚的に大きな方向を定めただうえで「読み」の量を落とし、最善の判断に近づくことができるのです。

直感とか大局観のような感覚的なものは経験値が物を言うと思います。経験を積んだ漁師さんは海に出れば、今日は雨が降るとか、このへんに魚が群れているなどと感覚的に捉えませんが、新人にはそれができません。将棋の直感や大局観もこれと同じで、言語化とか数値化とか論理化することができないところは経験値が非常に大きいと思います。

——羽生さんは若くして七冠王となりましたが、すでにその頃から直感も大局観も身につけていたのでしょうか。

羽生 私自身、若い頃の指し方

と現在の指し方は違ってきていると感じています。二〇代で「読み」に思考のかかなりの部分を費やしていたのを減らし、現在は感覚的な判断や方向性を捉えるようになりました。でも七冠を達成したときは、私の個人的な能力というよりも、周囲の圧倒的な後押しみたいなものの力が大きかったと思っています。野球でもサッカーでもホームゲー

「美意識」がない コンピュータ将棋には

——数百年もの歴史がある将棋ですが、今のルールが確立したのはいつ頃でしょうか。

羽生 江戸時代と言われています。その頃の将棋は家元制度が敷かれ、「名人」というのは家元が世襲で受け継いできた称号でした。茶道や華道、歌舞伎などと同じような世界だったんです。近代になって十三世名人の関根金次郎が世襲制を廃止し、「名人」は実力制に移行しました。伝統的な世界のなかでも、将棋は異質な歴史をたどって今日に至っ

ムアドバンテージというのがありますよね。対局場で観客が私を応援してくれるわけではないのですが、あれと同じような感覚がありました。一年間かけて七つのタイトルを獲得していく過程で、大きな流れやうねり、周りの雰囲気に乗っている感じがあって、自力で勝ったという感じはなかったんです。

ています。

——日本だけでなく、アジア各国にも独自の将棋があります。

羽生 古代インドのチャトランガという双六のようなゲームが将棋の起源と言われていますが、それが伝わって、タイ、韓国、中国、モンゴル、ミャンマーなどで独自の将棋となりました。けれども、今では廃れてしまっているものもあるんです。チャトランガはもうほとんど残っていないし、プロの将棋として存在しているのは中国の象棋(シャ

ンチー)と日本だけだと思います。ですから、日本で今日まで将棋がきちんとした形で続いているのは非常にありがたいことだなと思っています。

——現在、将棋人口はどれくらいでしょうか。

羽生 将棋のルールを知っている人は一〇〇〇万人弱と言われます。ただ、実際に将棋を指して勝負するのはハードと言えはハードなので、日本将棋連盟では、将棋を見て楽しむファンも増やそうと力を入れているところなんです。あるいは、子どもに将棋そのものを教えるだけでなく、将棋をつうじて礼儀作法や集中力を身につけてもらったり、将棋を親子のコミュニケーションのツールにしてもらうといった、付随的な効果も併せて浸透させたいと試行錯誤しているところなんです。

——近年ではコンピュータ将棋が強くなり、「電王戦」でプロ棋士が負けたこともあります。

羽生 コンピューターの将棋ソフトの歴史を振り返ると、当初はハードの性能向上で強くなり



ました。過去の棋譜など膨大なデータを入力し、計算させたわけです。それに加え、最近では「機械学習」と呼ばれる技術も用いられるようになっていきます。データや計算量を増やすと同時に、コンピューターの判断する力を上げていくということもしているんです。

——コンピューターが自分で判断する力を磨くのですか。

羽生 そうです。棋士は大局観を使って読みを省略するとい

う話をしましたが、コンピューターもそれと似たようなことをしている。一秒間に何千万と計算して考えるうえに、どうやったら無駄な思考を省略できるかというプロセスも学習していて、コンピューターは飛躍的に実力が上がっています。

しかし、コンピューターは人間が持っている美意識みたいなものまで身につけることはできません。たとえば職人さんの動きは無駄がなく、洗練され、綺麗ですよ。将棋の手を指すときも、見たときの美しさとか、そういうものを磨くことが、実力を上げることとイコールに近いんです。でもコンピューターには「この局面が美しい」といった観点はありません。コンピューターは、例えば、飛車と角と銀の三つの駒がこの場所にあるときは勝率がいいとか悪いとか、統計的に判断するだけです。

——コンピューター同士の将棋は、人間とは違うものになりますか。

羽生 ルールは同じでも、内容としては全く違う棋譜ができて

がります。ただ、それを人間が参考にすることもできるわけです。

——羽生さんも影響を受けますか。

羽生 ここ二、三年、かなり影響を受けています。新しい発想とかアイデアをコンピューターが見つけることは、将棋の世界でめずらしくなくなっています。コンピューターは人間の美意識を持っていないけれど、人間の盲点や死角をつく手を指すときがあるんです。人間の思考の保守的なところをついてくるのですが、逆に、コンピューターの思考にも保守的なところがあります。どんなに瞬時に計算量を増やすことができて、二〇手先、三〇手先まで見通すことはできず、ある段階のところで評価をしなくてはなりません。コンピューターの評価の仕方が限定的なため、長期的なビジョンで「この一手」を見つけてるのは苦手なんです。

——羽生さんが電王戦で対局することになったら、そこを一つの鍵としてお考えになりますか。

羽生 というよりは、プログラムそのものを、いかに限られた時間で解析するか、ということをやることになります。普段の将棋の勉強とは全く違うことをしなければいけませんし、やるとなったら電気代もかかります（笑）。四六時中ずっとデータ解析をすることになるので、電王戦に出た人によると、電力会社から「今月は何をしたのですか？」と不審に思われるほど電気代が跳ね上がるらしいです。

時代とともに将棋の競技としての質が変わりつつあるのは間違いないですね。棋士の能力として、創造的なアイデアとか発想が重視されてきましたが、これから求められるのは、コンピューターソフトをいかにうまく活用できるかというスキルです。コンピューターを道具として使いこなし、そこで得たものも自分の実力に反映していくことが、棋士に求められるようになると思います。

——本日は、貴重なお話をどうもありがとうございました。

地域の底力

山形県鶴岡市の未来を担うのは 受け継がれてきた豊かな食文化

江戸時代から変わらぬ精神と、
地域に根付いた旬のご馳走。
鶴岡市では当たり前の暮らしが、
世界に誇るべき宝物だった。



上／鶴岡市が誇る在来野菜のカラトリイモ(里芋の一種)、孟宗竹、だだちゃ豆。
右中／だだちゃ豆のさやを食べて育つ羊は、概念を覆すおいしさ。下／杉並木の
なかを行く約2kmの参道、国宝「羽黒山五重塔」など、月山、湯殿山、羽黒山か
らなる出羽三山もまた、鶴岡の歴史や文化を語る上で重要な役割を担っている。

取材・文山内史子
写真野瀬勝一



出羽神社、月山神社、湯殿山神社からなる「出羽三山神社」。6世紀末から7世紀初頭にかけて、崇峻天皇の皇子である蜂子皇子により開山されたといわれる。2016年、日本遺産に認定。



受け継がれてきた 庄内藩の心

人口約一三万人の山形県鶴岡市は日本海に面し、月山をはじめとする出羽三山や鳥海山などの山々に囲まれた庄内平野に位置する。六市町村が二〇〇五年に合併し、

その行政面積は東北六県のなかでもっとも広い。

江戸時代には、譜代酒井家が治めていた庄内藩の城があったまち。市の中心部には今なお、城下町の面影が感じられるまち並みが残る。時代小説のファンであるなら、鶴岡出身の作家・藤沢周平氏が描く作品の舞台、「海坂藩」の景色が思い出されることだろう。

庄内平野、すなわちかつての庄内藩は大きくふたつに分かれる。北前船の交易で栄え、豪商本間家が力を有した商人町酒田と、そして殿様がいたこの鶴岡だ。市長の榎本政規氏に鶴岡の魅力を伺ったところ、今なお、人々には昔ながらの気質が見られるという。

「鶴岡は城下町、お殿様の町。その気風は、今も遺伝子的に残っているといます。人間性はかなりのんびりしていますね。寛容の精神があつて忍耐強く、ときには過ぎるほどに謙虚です」

知らない相手に対しては信用できるまでは取引をしないが、わかりあえばとことんつきあう。質実さ、堅実さもある。そんな鶴岡の心を語る上で興味深いのは、かつての

上／1805年の創設以来、徂徠学を基本として庄内藩士たちの精神を育んだ藩校「致道館」は、現在、一般公開されている。国指定史跡。
下／庄内藩主の居城鶴ヶ岡城跡である鶴岡公園に建つ「鶴岡市立藤沢周平記念館」。移築された書斎、自筆原稿や愛用品、鶴岡の景色が彩る作品紹介などを展示。



「徳川の時代は朱子学が主流でしたが、庄内藩は、荻生徂徠(注1)が提唱する徂徠学が藩学だったんです」

「鶴岡は城下町、お殿様の町。その気風は、今も遺伝的に残っているといます。人間性はかなりのんびりしていますね。寛容の精神があつて忍耐強く、ときには過ぎるほどに謙虚です」



「鶴岡は春夏秋冬の四季が日本で一番はっきりしているそうです」とは、鶴岡市長の榎本政規氏。庄内藩以前、2005年に開山1400年を迎えた出羽三山が、人々の精神のよりどころとなっているとも。

た際、領民が幕府に直接かけあつて取りやめさせたのは、己の考えに基づいた行動の最たるあらわれだろう。

また戊辰戦争では最後まで明治政府に恭順せず、政府軍の進入から領地を守る強さを誇ったが、その後の処分は西郷隆盛の取りなしで軽く済んだのだとか。恩を忘れず、西南戦争にかけつけた庄内藩士が多数いたそうだ。

「副島種臣(注2)さんが庄内人を評し、『沈潜(ちんせん)の風(ふう)』と言ったそうですね。普段はいるかいけないかわからないが、いざというときには力を発揮するぞと」

世界が認めた 多彩な在来作物

その鶴岡市が今、二〇一四年にユネスコ食文化創造都市として日本では初めて認定されたこと、国内外の注目を集めている。

地域には五〇種以上もの在来作物が存在し、大切に育てられてきた。また、春は孟宗竹、初夏はサクラソボやメロン、夏にはだだちゃ豆、秋は里芋、冬は鱈と、鶴岡の

暮らしは現代もお、地元の旬の食材と密接につながっていると、榎本氏は語る。

「それを当たり前だと思っていたんですね。そもそも、うまいものだとは思っていないんです。でも、ほかから来ると『すごい』ということになる」

出羽三山の修験道や季節の行事に関わる食文化も受け継がれてきたが、地元では歴史や多彩さを意識していなかったため、正直なところ食文化創造都市という言葉に

ピンと来ていない人も多いとか。

「認定はある意味、新たなスタート地点であつて、ゴールではないと思つているんです」

実は鶴岡は、学校給食発祥の地でもある。一八八九年に私立忠愛小学校で貧しい子どもたちに食事を与えたのが、そのはじまりだ。市では学校給食における鶴岡産野菜の利用率五〇%を目指し、子どもたちに地元で栽培されている野菜やお米などのおいしさを知ってもらう取り組みを進めている。

佐々木風温の五十嵐組合長の佐々木茂氏(左)と、組合員の五十嵐温一氏(右)。背後に見える斜面が、焼き畑作業を経て、11月から出荷される。



榎本氏によれば、地元の食材のすばらしさを認識するに至った経緯には、市内に山形大学農学部があつたこ

とも幸しいとも。

「農学部(じやうぶく)の江頭宏昌(ひろあき)先生が、在来作物研究会を立ち上げ、埋もれていた食材を掘り起こしてくれたんです」

全国と比較しても多彩な在来品種が見つかつている鶴岡は、他県から赴任してきた江頭氏にとって宝の山だったようだ。山間部(ひた)の霞(かすみ)という地域で四〇〇年前から続いている、温海(あつみ)かぶもそのひとつ。

多くが漬物にされる温海かぶは「皮が薄い。歯ざわりがぱりぱりしている」と、説明してくれたのは、一霞温海かぶ生産組合長の佐々木茂氏だ。その特徴を生むのは、今ではほとんど見られない焼き畑の自然農法栽培だという。

佐々木氏、そして組合員の五十嵐勇一氏に畑へと案内されたものの、しばし呆然となる。背丈ほどの斜面にしか見えない。

五十嵐氏によれば、山中に点在する畑は数年ごとに使われ、下草を刈られた後に火が放たれるそう。その後、畑の表面がまだ熱いうちに種がまかれ、ほぼ自然にまかせての栽培となる。

注1/ 萩生徂徠(二六六六〜一七二八)

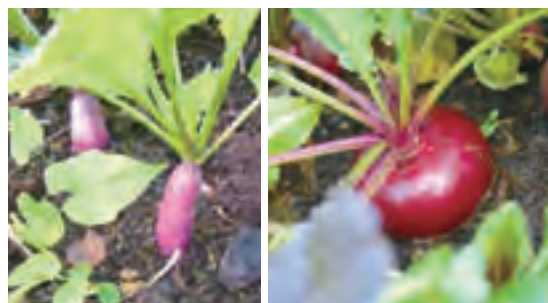
儒学を經世済民の学、治世の学としてとらえ、またその実証的研究の重要性を説いた。その一つの表れとして、江戸幕府第八代將軍吉宗に献じられた「政談」が知られる。同書において、徂徠は當時の政治・経済・文化・風俗を明示しつつ、その問題点と解決策を論じた。また、その方法論として、後世の解釈に左右されず、直接的に古典を学ぶべきとした「古文辞学」を確立した。

注2/ 副島種臣(一八二八〜一九〇五)

江戸時代末期から明治時代の佐賀藩士・政治家。国学者の父と兄の影響により早くから尊王攘夷思想に目覚める。政体書の起草や版籍奉還に尽力。



温海かぶと同様に焼き畑農法の大地に育つ「田川かぶ」(右)と「藤沢かぶ」(左)、青首大根にも似た「宝合かぶ」(下)など、少量生産ながらかぶだけでも鶴岡の在来作物は多彩だ。



「いいかぶは根が一本、ぴっと生える。ふつうの畑では根があらこちらから出るんですが、斜面で育てると長い根一本がすっと伸びるんです。われわれ一霞の人は、形のいいかぶができると畑に移植し、ときには交配して、優秀な種を確保してきた。白菜や大根のようなかぶと同じアブラナ系統の花は一切咲かせず、すぐに抜いてしまいますが、このあたりではそれが常識です」

種を採り、よりすぐれた系統を残す。鶴岡の在来品種の多さは、その伝統が受け継がれてきた背景にある。かつては全国で行われていたことだが、現在、均一な品質を求めて種苗メーカーから種を買うのが一般的なのだ。

それにしても、斜面での農作業

にはかなりの苦勞があるはずだが、後継者は果たしているのだろうか。「二霞から出た人も、その時期になると戻ってかぶをつくる。なかには四〇代、三〇代もいますから、おそらく一霞のかぶはなくなるならないだろうなと思います。一番は生活のため。お金になりますからね」

北海道から沖繩まで、広く全国に温海かぶのファンがいるという。ロゴマークをつくり、いち早くブランド化を図ったのも大きいだろう。八月の中ごろに畑を焼いて種をまき、収穫は十月の末ごろからという、三カ月限りの短い作業期間も幸いしているようだ。

すべては一軒のレストランから始まった

鶴岡の在来作物を語る上で、山形大学農学部の江頭氏とともにもうひとり語るべき人がいる。レストラン「アル・ケッチャーノ」のシェフで鶴岡市出身の奥田政行氏だ。江頭氏とともに農家を訪ねて、限られた地域で栽培されていた在来種に陽の光をあてたのだ。

美味を目当てに全国から食通が訪れるレストランは連日予約でいっぱいだが、そこに至る奥田氏の道のりは限りなく険しいものだった。

当初、奥田氏は料理が広く評判を呼んでいた実家のドライブインを継ぐつもりでいたが、人に騙された父親が多額の負債を抱え、未

来図は変更を余儀なくされる。

光明が見えたのは、東京での修業先だった。仕入れた食材が気に入らなければ返品が当たり前の厳しいシェフのもとで働いていたが、鶴岡の食材だけは「自然の香りがあるね」と認めていたという。

「このまま自分の一生が終わるかもしれない多額の借金を抱えるなか、その言葉を聞いて、針穴ぐらいのちいさな穴でしたが、光が見えたような気がしました」

二五歳で故郷に戻り地元食材を広めようとするものの、残念ながら誰も興味を持たず。ホテルの料理長、農家レストランのシェフを経て二〇〇〇年に立ち上げたのが、「アル・ケッチャーノ」だ。

まだ地産地消という言葉は生まれていない時代に掲げたのは、「地

場イタリアン」の看板。資金は一五〇万円。器は一〇〇円ショップで揃えるなど、ないない尽くしのスタートだった。

「オープンした頃、ヨーロッパと比べて日本の野菜は力がない、日本の野菜はだめだというのが、料理界の常識でした。でも、庄内の食材は力強さがあつたんです」

その食材の力を最大限引き立てることに徹するのが、奥田氏の料理の最大の特徴。野菜、肉、魚。



「アル・ケッチャーノ」のシェフ奥田政行氏。鶴岡市が主催した二〇一五年開催の「ミラノ万博」で記録的な来客数を記録するなど、海外での評価も高い。店名は「あつたじゃないか」という意味の方言に由来する。

奥田氏のもとには、全国から料理人を目指す若手が集まる。鶴岡市内や東京に広がる奥田氏プロデュースの店は、修業を終った彼らの活躍の場にもなっている。



広く伝播した
故郷への熱い思い

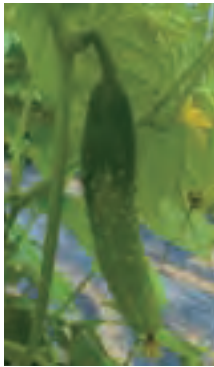
「赤川と出羽三山が育んだ鶴岡の食材の種類は、おそらく世界一。海には一三八種類ほどの魚がいて、川の生物が約四〇種類。在来作物に加え、山菜の聖地である月山を持つている。堆肥をつくるために、

それぞれが口中で、个性的かつやわからかに花開く。鶴岡に足を延ばしてこそ堪能できるご馳走の噂は口コミで広がり、やがて大手出版社の人気雑誌に立て続けに紹介されたことで、世間の耳目を集めるようになった。

畜産品にも恵まれてきた。庄内豚、山形牛、羊、ハト、ヤギ……」話を聞くうちに、故郷への熱い思いがひしひしと伝わってくる。「鶴岡に生まれ落ちた、自分の運命や使命は何かなと深く考えた」という奥田氏は、「食の都庄内」を提唱し、歴史と食文化をまとめた資料はユネスコ創造都市認定を推進する礎となった。

転機は奥田氏との出会いの前、農協で働く友人の相談にのったことで生まれた。「ただじゃ豆のさやを捨てるには労力が必要だし、産廃施設ではお金がかかる。おまえのところの羊に食わせないかと。豆類だったら何でも食べるので、人助けというよりも餌代が安く上がるかなと考えて引き受けました」

丸山氏の羊もまた脚光を浴びる。現在、丸山氏のもとでは新規就農の研修生に加え、一度は違う道に進んだ息子さんが働いている。「誇りというほどのことではないけれども、これで生きていけるでしょうと。奥田シエフのおかげが相当あると思いますよ。畑の野菜にしる山菜にしる果樹にしる、ブランド力をつけていたただいたことによって、若者たちが農業に魅力を感じてきている」



出羽三山に向かう途中の弘法大師が食べて喉を潤した、との伝説も残る「外内島きゅうり」、小ぶりなうちに収穫され漬物になる「民田なす」(左)、皮が薄く甘みを秘めた「沖田なす」(下)。いずれも鶴岡の生活に馴染んだ存在だ。

孤軍奮闘でも、自らの考えを信じて邁進した奥田氏の人生の物語は、市長から伺った徂徠学を思い出させるものだった。彼が切り拓いた道は、多くの生産者たちにあらたな機会をもたらすことにも。そのひとりが「月山高原花沢ファーム」を営み、一九七六年から羊を育ててきた丸山光平氏だ。

しかしながら羊の需要が少ないため経営は芳しくなく、廃業を考えていた頃、人を介して肉を入手した奥田氏が、ほかの羊にはないそのおいしさに気づいた。実際、丸山氏の羊は独特のクセがなく、噛むうちにじゅわじゅわとやさしいうまみがあふれ出る。「アル・ケツチャーノ」の名声が高まるにつれ、

右から「月山高原花沢ファーム」を営む丸山光平氏、三年前に就農した息子の公介氏、新規就農を目指して研修中の丸山洋充氏。ファーム内では、約二〇頭の羊が健やかに育てられている。





4館で計437名収容できる「鶴岡まちなかキネマ」は劇場内も木を基調としており、やわらかな趣がある。館内ではファッションアイテムをはじめとする「鶴岡シルク kibiso」の商品も販売。



株式会社まちづくり鶴岡企画部長（取材当時）の菅隆氏は、仙台ほか長年にわたり他の地域でまちづくりに関わってきた経験を地元で活かしている。

街中に生まれた あらたな コミュニティの場

食だけではなく、かつては絹織物もまた、鶴岡を支えてきた文化。繭から製糸、そして布地まで、一貫した生産が行われていた歴史がある。

街中に残されていた絹織物工場

を映画館にし、まちの再生をはかろうとしたのが「株式会社まちづくり鶴岡」だった。立ち上げから関わってきた企画部長（取材当時）の菅隆氏が、当初を振り返る。

「シネコンのような画一的につくられた劇場ではなく、味のある建物のよさを活かす新しい映画館を打ち出そうということになりました。スケールメリットで勝負するのではなく、特徴づけとオペレーションの工夫で市民に支持していただけるような、そういう建物にしたい」と

完成した「鶴岡まちなかキネマ」の建物は、築八〇年の木造建築。内部はトラス構造が幾何学的な美しい絵を描いている。

映画館という選択は、「たそがれ清兵衛」をはじめ藤沢周平氏の作品が続々と映画化され、話題になっていたことも影響する。

「原作の舞台として、鶴岡でロケがある。市民がエキストラやボランティアでサポートする。とはいえ、完成した映画を見るには隣の田んぼの中のショッピングセンターのシネコンまでわざわざ行く必要があり、市民から映画館設置

くらげの展示種類数世界一を誇る「鶴岡市立加茂水族館」もまた、県内外から多くの人が訪れる鶴岡の宝のひとつ。来客数が減り閉館寸前だったが、一九九九年からくらげに特化したことで見事に復活を果たした。



要請の声が聞こえていたんです」完成から六年目を迎えた現在、思っていた以上の効果を得ていると菅氏は話す。

「作品を多様化することで、世代を超えたお客様に来ていただけるのが映画の強み。一定の期間で上映作品が変わるためリピーターも多くなります。市民がこれだけ重ねて利用する娯楽施設は、あまりほかにはありません。映画館から足が離れていた年配のお客様も、近くにあるからと戻ってくる

いった回帰も見られるようになりました」

大手では上映が難しいアート系の作品や持ち込み企画など、場合によっては近隣市町村はもちろん、時には首都圏からも人が訪れるようになったとか。近隣の商店街活性化を目指す上での連携にはまだまだ課題は多いものの、上映回数を増やすなどの工夫を重ね、来場者は確実に増えている。

「最初のころは映画館なんてやってたって人は来ない、という意見もありましたが、数字は去年、過去最高になりました」

菅氏はそう話しながら笑顔を見せた。

絹製品もふたたび「鶴岡シルク」としてブランド化が図られ、映画館には贈答品やお土産の買い物目当ての人も訪れるようになったという。





2001年4月に誕生した慶應義塾大学先端生命科学研究所。豊かな食文化や気軽にできる磯釣り、出羽三山散策など、都会とは異なる鶴岡の暮らしを満喫している研究員は多いとか。

先端技術が世界に広める TSURUOKA

映画館とともにまちの未来を担うのは、意外にも先端技術の研究機関や企業なのどうか。その最たる存在が、慶應義塾大学先端生命科学研究所だという、榎本市長の話に戻ろう。

「前市長の富塚陽一氏が誘致した研究所で、当初は何をするところ？とも言われましたが、製造業だけでは地方都市はもたないとなれば研究開発の拠点だろう、研究機関がベンチャー企業の集積場となるだろう、との予見があったと思います」

開設から今年で一五年。実際先端生命科学研究所からは五つのベンチャー企業が立ち上がり、研

究所を含めた就労者数は三五〇人を超えた。人工合成クモ糸の製品化に成功した「スパイバー」をはじめ、世界的な話題を生む企業も少なくない。現在、スパイバーで働く研究員の一角は、海外からの応募だ。関連する国際学会も開催されている。

「TSURUOKAという名は、その世界の人から見ると結構有名なようですよ」

榎本氏は控えめながらも、嬉しそうな表情を見せた。

「ご多分にもれず鶴岡でも人口減少の問題を抱えています。少子化とともに大きいのは、若い人たちの働く場が少ないこと。出生率の減少よりも、まちから出ていく社会減をどう食い止めるかが今の課題ですが、先端研で働きたいというUターンも出てきました」

鶴岡駅のすぐ北側という一等地には工業団地があり、ソニーなど世界に名だたる企業もあるが、肝心の地元の人たち、とくに子どもたちの就職を左右する親の世代にその存在があまり知られていないという。

旬のおいしさを堪能できる食文化もまた然りだが、人は身近にあ

る幸せほど気づきにくい。地元の変化や進化もまた、認識しないまま過ごしているケースは多い。

「職員には、こう言っているんです。東北一広い自治体になって、これだけの財産があるんだから、まずは自分のところをちゃんとPRできるだけの勉強をせいと。どうせやるなら、一市民として楽しくおもしろく元気を出してやれ、結果責任は市長がとるからと。今、いろいろと各課が動き始めています」

歴史、食文化、そしてあらたな取り組み。まちは時間をかけて脱皮をはかろうとしている。アル・ケッチャーノの奥田氏が、こう語っていたのも思い出す。

「子どもたちに種まきをする、必ず成長してくるんですよ」

一〇年、二〇年の歳月が必要になるかもしれないが、食をはじめとする子どもたちの心にまかれた鶴岡の魅力は、まちを思う誇りへと未来には変わるはずだ。受け継がれてきた在来作物の種が、歳月を経てなお実りを鶴岡にもたらしているように。

副島種臣がいうところの「沈潜の風」が今も、鶴岡にふいている。



鶴岡のまちの景色の要的存在ともいえる、赤川と月山。

守
破
対談
創

さまざまな社会現象を背景にしながら、大胆な発想のミステリーで、ベストセラーを連発している宮部みゆき氏。作品の着想や執筆についての質問を起点に、ミステリーへの愛があふれる対談から、現在の社会情勢、さらには、各種テクノロジーの利便性や問題点について、多岐にわたるさまざまな提言と展望が導き出された。



日本銀行総裁

黒田東彦

Haruhiko Kuroda

1944年福岡県生まれ。67年東京大学法学部卒業後、大蔵省（現財務省）に入省。71年イギリス・オックスフォード大学経済学修士号取得、75年から78年までIMF（国際通貨基金）に出向、96年大蔵省財政金融研究所長、97年同国際金融局長、98年同国際局長、99年財務官、2003年内閣官房参与、同年一橋大学大学院経済学研究科教授（兼務）、05年アジア開発銀行総裁、13年3月日本銀行総裁就任、同年4月同再任。

小説は、読まれて、受け取る人がいてこそ、完成する



小説家

宮部みゆき

Miyuki Miyabe

1960年東京都生まれ。87年『我が隣人の犯罪』でオール讀物推理小説新人賞を受賞し、小説家としてデビュー。89年『魔術はささやく』で日本推理サスペンス大賞、93年『火車』で山本周五郎賞、97年『蒲生邸事件』で日本SF大賞、99年『理由』で直木賞を受賞する。2002年『模倣犯』で司馬遼太郎賞、芸術選奨文部科学大臣賞（文学部門）を受賞。『ペテロの葬列』『名もなき毒』など、数々のベストセラーを生み出している。

創作の秘密

黒田 宮部さんにぜひお聞きしたいと思っていたことがあります。

宮部さんは、幅広くいろいろな小説をお書きになっており、時代背景ひとつをとっても、現代、戦前、江戸時代もある。主人公も、子供、青年、中年の人、老人もいますし、犬やお財布など、ありとあらゆる主人公がいて、いろいろな人間や社会の局面をスリリングに描いています。そうしたさまざまな小説を創作するに当たってのヒントを、どういうところから得られているのか、非常に関心があります。

宮部 黒田総裁が就任された際の報道で、時代小説やミステリーがお好きだという情報があり、私のまわりでも、総裁にどんな作品を読んでいたかというのだろうと話題になりました。

私は、デビューして二九年で、来年で三〇年になります。一貫して単調な生活を

ています。身軽なひとり身で
すし、あまり旅行もしません
ので、変化のない生活を送っ
ています。ですから、経験重
視主義では何も書けません。

創作のヒントになるのは、本
で読んだこと、ニュースで見た
こと、日常の中で私自身がおも
しろいなと思ったこと、逆に怖
いなと思ったことやこういう
ふうになつたら嫌だなと思う
ようなことが、何かしらのきっ
かけになっていっていると思
います。

黒田 執筆時には、取材はされ
るのでしょうか。というのは、
例えば『返事はいらぬ』とい
うだいぶ前の短編集で、冒頭
に出ているキャッシュカード
の話を初めて読んだとき、す
ごいことを知っておられるな
と思ったのです。

宮部 昔から私は、何かを書こ
うというときには、資料にな
りそうな本をまず、大きな書
店に探しに行きます。例えば、
セキュリティーであれば、セ
キュリティーというコーナー
に行つて探します。そういう
参考資料で大体用が足りませ

現場で働いていらつしやる
方にお会いしたほうがいいな
という場合は、ありがたいこ
とに、版元の担当の編集者さ
んにお願ひすると、今はこの
方に聞くのが一番ですとアド
バイスしてもらえます。でも、
そういうケースは、私の場合
は少ないです。

法律的なこととか、これだ
けは押さえておかなければい
けないというときは取材に行
きます。去年、ネットパトロ
ルというネット上の危険な情
報をチェックするお仕事にな
さっている方の話を書こうと
思ったときは、その会社の運
営者に会いに行きました。し
かし、実際に書いたのは何つ
た話や現実とかけ離れていて、
先方も驚いたと思います。

**ミステリー作家の
ネタが豊富な時代は、
本当は困る時代**

黒田 ごく最近読んだ『ペテロ
の葬列』はすごく複雑な話で
すよね。バブル期のいろいろな
社会現象の話から、怪しげ

なものを売る話、そしてネズ
ミ講みたいな話まであり、し
かも、その背後にどういう人々
がいたとかいうような話でし
た。このような広い意味の社
会現象を扱う話になると、特
定の専門家に聞いて間に合う
話でもないと感じました。

宮部 『ペテロの葬列』は、豊
田商事事件（注1）について
管財人の方がまとめた大変す
ばらしい本を参考にしました。

私は、豊田商事事件が起きたこ
ろ、新宿の法律事務所であ
っていました。専門的なことは
していなかったのですが、何
度か裁判所へ行きました。あ
の事件の主な舞台は関西でし
たが、東京地裁にも、あの事
件で被害に遭つた方の窓口が
あり、いろいろな書類が置か
れていて、それを大変興味深
く見ていました。これは他人
事じゃないし、自分だつてこ
ういうことにひっかかっちゃ
うことがあるかもしれないと
思ったので、ずっと記憶に残っ
ていたのです。

当時、私は作家になろうとい

う気持ちがあったわけではな
く、純粹にこの事件には興味
があったので、事件を取り扱っ
ている本が出ると買って手元
に置いて読んでいました。それ
が執筆の際に役に立ちました。

黒田 社会現象を背景にした
ミステリーというと、学生時代
に松本清張の作品を読みまし
たが、最近縁遠くなってい
ます。推理小説としてもおも
しろい『点と線』もあります
が、清張の社会派のミステリーは、
占領軍、悪徳政治家、悪徳官僚
といった巨悪による陰謀史観
があつて、そうした背景のもと
で一般の人が事件に巻き込ま
れていく形が多く見られます。

その点、宮部さんの作品は、
クレジットカードの破綻とか、
社会現象を扱っていますが、特
定の巨悪が人を裏で操ってい
るといった感じの話ではありま
せん。誰もがひっかかつてし
まうかもしれないし、自分も
悪いほうに回つてしまふかも
しれないという……。

宮部 自分もうっかりすると
人をだましてしまふかもしれ

注1／豊田商事事件
豊田商事による組織的詐欺
事件。金・地金を販売するが、
顧客に現物を渡さない現物ま
がいの商法を手口とした。高齢
者を中心に数万人が被害に遭
い、被害総額は二千億円近く
と見積もられる。

ないみたいなの……。

黒田 そうです。社会現象自体は、二〇年、三〇年でどんな変わっています。その社会現象が変化して過去のものとなった後、それを取り扱う小説も古びてしまい、読めなくなるケースがあります。しかし、宮部さんの作品は、そうでないところがすばらしいと思っています。

宮部 私は昭和三十五年生まれで、高校一年生ぐらいから松本清張さんの作品を読み始めたんです。清張さんが推理小説を書き始めて、ジャーナリストティックな清張ミステリーを築き上げていかれた昭和三十年代は、一般庶民、市井の人はまだ力がありませんでした。マスコミもいろいろなものを暴き立てる力はなかった。戦時中はマスコミが大政翼賛の側になっていたという暗い過去を、近い距離で背負っていて、全てを立て直していかなきやならない時代でもあり、闘うべき巨悪があったのだらうと思います。

今はないですよ。悪というよりも、不具合というか、ここがこうなってくれないと困る人がたくさんいる、でも、そこを直しちゃうと、今度は反対側でものごとく困る人が出てくるとか、そういう時代ではないかと思っています。

そうした不具合を抱えていて、いろいろなものがきしんでいることを身近に感じます。それがミステリーの題材になるんです。私にとって、食品偽装とかスーパリーのメロンパンに針が刺してあるのは他人事じゃないので、どんな人がなぜそんなことをするのだらうというのが素材になるのです。ミステリー作家の私にとって、はネタを見つけやすいのです。本当は、そんな時代では困るのですが。

黒田 いろいろな人がいて、一方で底抜けの善人がいるし、他方でサイコパス（注2）みたいな感じの人もいるのでしょうか、大半の人は中間ですよ。それで、何かの拍子にちょっと悪いほうに寄ったような人が

いるわけですよ。そういう面では非常に印象も深く、そして宮部さんの小説は、とても怖いですね。

宮部 怖がっていただけじゃなくて光栄です。私は、自分が好きで好きで物語を読んで、それから書き始めたという典型的なファンライターなんです。その中でも総裁もあげられている岡本綺堂（注3）を、私も尊敬しています。この方は戯曲を書く人でもあり、当代一流の教養人でした。もちろん作品も素晴らしく面白いですが、その点でも憧れの作家です。幅広い教養は、大切なものだと思います。

黒田 最近、大学改革という流れで、文系が圧迫されて理系が拡大されるという話をよく聞きます。しかし、実はアメリカでも、一般教養の必要性が最近また言われているんです。**宮部** 見直されているんですね。

黒田 もちろんアメリカの大学は、どんどん専門化しているんです。もう学部ではだめで

大学院が必須という感じですよ。

ただ、他方で、一九世紀的というか、二〇世紀前半のよくな一般教養、文科系の教養が重要ではないかということが言われています。私もそのとおりだと思います。

宮部 お忙しい総裁がこんなにミステリーを読んでくださっているんだということを広く若い方に知ってほしいですね。小説は、時間ばかりとられて無駄なものでは決してありません。小説を読まないという偉くなれないのですよ、ということを宣伝したいです（笑）。**黒田** 最近、ネットで情報が得られるため、紙の本が売れないという話も耳にします。

宮部 ただ、決して読まれていないわけではなく、読まれ方が変わりました。流通の問題もあると思います。電子書籍でもいいのですが、丸々一冊読み通してもらわないと、かからない魔法というのがあると思います。その魔法自体は小さいものですが、それを子供のころから味わっていると、その魔法によっ

注2／サイコパス
反社会的人格の一種を意味する心理学用語。

注3／岡本綺堂（一八七二—一九三九）

新歌舞伎を代表する劇作家。『維新前後』や『修禪寺物語』によって知られる。そのスタイルから「綺堂物」といった言葉も生まれた。新聞の長編小説、探偵もの、怪奇スリラーもの等数多くを執筆。シャーロック・ホームズの影響を受けて執筆した岡引捕り物小説『平七捕物帳』は、シリーズ六九作品となる人気作。本誌二〇一六年夏号の黒田総裁特別寄稿（私の出会った文豪）参照。

注4/ニューヨーク連銀
アメリカの中央銀行である「連邦準備制度」を構成している連邦銀行のひとつ。

注5/SWIFT
外国中銀を含む金融機関の金融取引に関する電文を受発信するための国際的なネットワークシステムを提供する組織。また、システム自体もSWIFTと呼ぶ。約200カ国の一万以上のユーザーを結んでいる。

て、使える魔法がどこかに出てくるんじゃないかと。大人になって、つらいときとか苦しいときとかうまくいかないときなんかは、子供のころから本を読んできた、その本から少しづつつけてもらっていた魔法が物を言うことがあるんだ、と特に若い読者の方とお話しする機会があると申し上げるようになっていきます。

情報テクノロジーの発達とグローバル化の落とし穴

黒田 話は変わりますが、日本銀行は金融システム全体の真ん中にいます。銀行券を出しており、銀行の銀行であり、政府の銀行でもあります。いろいろな企業の決済は、銀行間で決済が行われ、銀行間の決済は、最終的に日銀の中で決済されます。この決済は、日銀ネットという巨大なコンピュータシステムで処理されています。一日に一二〇兆とか一三〇兆円の取引が行われているのです。

宮部 あまりにも大金で、現

実感がなくくらの額ですね。
黒田 最近、テクノロジーがすごい勢いで進歩しており、金融の世界では、情報技術の発展で、一瞬にしているいろいろな取引を全世界と行えるなど、経済のグローバル化の先兵になっていきます。他方、悪いことをすると全世界に波及します。日本のメディアではそれほど報道されていないのですが、

ニューヨーク連銀（注4）にあったバングラデシュの中央銀行の預金が、不正に海外送金された事件が起きました。詳細は明らかではないのですが、バングラデシュの中央銀行のお金を預かっているニューヨーク連銀にある口座から、八一〇〇万ドルのお金がフィリピンの銀行に送金されてしまい、さらにそこからさまざまに銀行口座に送金されて雲散霧消してしまつたのです。ニューヨーク連銀は、不正な指示を受け付けない仕組みはありましたが、通常の世界的な通信ネットワークであるSWIFT（注5）を経

由して、真正な形で指示されるという極めて巧妙な手口であつたために起きたのです。

宮部 すごい事件ですね。

黒田 日本ではそういう事件は起こっていません。日銀ネットはものすごく頑健で、外部から入られたこともなかったうえに、最近、新日銀ネットという新しいシステムに更新してさらに安全になっています。しかし、考えてみると、技術進歩でさまざまなことがものすごく便利になっていくことと並行し、ハッカーなどの悪いことをする人もまた同じように技術的能力を高めているので、非常に警戒しないといけません。

ちなみに、モバイルバンキングは、日本よりもむしろ、例えばアフガニスタンとか太平洋の島々で発達しているんです。私は、二〇〇五年から一三年まで、アジア開発銀行という国際機関の総裁をしていました。このアジア開発銀行はアジアの開発途上国を支援しており、アフガニスタンの携帯電話会

幅広いジャンルにわたる宮部氏の作品の数々



社にも投融资をしたんです。それは非常にうまくいって、何百万人もの人が携帯電話を利用できるようになりました。さらに携帯電話を使ったモバイルバンキングが行われました。
宮部 あそこは内戦もあるのに、銀行の支店を建てるとい

うわけにいかないのですね。

黒田 その通りです。モバイルバンキングは、携帯のステーションだけあれば対応できます。太平洋の島々も、すべての島に銀行の支店をつくるのは無理ですが、携帯のアンテナは立てられます。

こうした技術進歩は、すばらしいのですが、他方でそれが悪用されると、巨額の損失を一拳に、しかも一国内ではなく、インターネットでどこかの国から入ってきてやれるわけです。そういう意味では非常に怖い面もあります。

宮部 私は、モバイルバンキングはやっていません。今までネットでは何もやっていませんでしたが、今年になってタブレットを導入したら、確かに便利ですね。ネットだと古本を探すのもすごく便利です。クレジットカードを登録しておけば、翌日には注文した物が運ばれてきます。でも、一体何人の人が介在してこれができるようにしてくれたのだらう、そもそも最初のシス



宮部氏の愛猫

テムは誰がつくったんだらう、どこかで何か一つ間違いが起こると、きつとスムーズにいかないのだらうなと思うと、気が遠くなるような気がします。**黒田** 私も機械のことはよくわかりません。ただ、手書きと比較してパソコンは、とても便利だと思います。

宮部 私のやり方は中途半端で、パソコンでつくったデータを、今でもフロッピーとかメモリースティックに入れて事務所に渡して、事務所からデータで出版社に送ってもらっています。そうすると二重にバックアップがとれますし、私のパソコンは完全に独立したままでいられます。パソコンに「おまえはワープロだよ」と言い聞かせて、ワープロソフトしか動かしていないので、ク

ラッシュしたことがありますん(笑)。ただ、一度だけ、飼っている猫が急病になり、取り乱して書きかけの原稿を消してしまったことがあります。

グローバル化を前提とした金融教育

宮部 二三年前にこちらにお招きいただいたときは、小学校で金融教育をすればいいのにと申し上げました。あれは、ちょうどクレジットカード破産について書くために取材したところで、弁護士の方宮健児先生が、その当時からずっとそのことをおっしゃっていました。小学校の社会科で、せめて「経済」という項目で金利の仕組みとかを教えると随分違うんだけど。

黒田 今、金融広報中央委員会という組織を通じて、日本銀行としても金融教育を一生懸命やっております、各都道府県の教育委員会、学校の先生方にこれが重要だということを認識していただいています。

適切な教材とか、それから

金融商品とか、そういうことを知っている金融に詳しい人に講師になってもらい、まず先生方に説明して次いで、先生が理解して小中学生に授業の中で話していく。それが進んでいまして、いいことだと思いますね。

宮部 私たち大人も学ぶ機会がないですから、投資信託と言われても、いまだによくわかりません。銀行の人が言うのだから大丈夫なんだろうと思っていました。だから、リーマンショックのときには、あれよあれよという感じでした。

黒田 ただ、日米あるいは西欧といった資本主義経済が長く続いているところは、まだ金融に親しんでいると思います。一方、ロシアや東欧等の長年社会主義体制であったところは、そもそも金融という概念がなかったわけです。

宮部 それこそ、金融の何たるかを大人も全く何も知らないところに、リーマンショックのような問題が発生してしまっただけですね。



黒田 だから、旧社会主義国では金融教育に熱心なんです。主要二〇カ国の財務大臣と中央銀行総裁の会議であるG20が、モスクワであったときに、財務大臣と中央銀行総裁のほかに、ロシアの文部大臣

が出てきました。日本でいうと文部科学大臣ですね。いかに金融教育をロシアで一生懸命やっているかというのを説明してましたから、相当痛い目に遭ったのだと思います。**宮部** 怖いことに、生活習慣、言葉、文化、風習、全部違うけれども、世界は、経済では全部結びついているんですよ。

AIにできない 人間的営みとしての文学

宮部 日本は少子高齢化が進んで、介護とかさまざまなところで人手が必要なのに担う人がいないと言われています。日本は、手塚治虫さんという偉大な方のおかげでしょうが、先進国では珍しいくらい、ロボットに対して抵抗がない国なのだそうです。だから、これから少子高齢化で人口が減っていくのであれば、どんどんロボットがあふれる国になるんじゃないかと思うんです。私はSFが好きなので、それはそれでちょっと楽しみだなと思ったりしています。

黒田 おっしゃるとおりだと思いますし、そもそも産業用ロボットというのも圧倒的に日本に集積していたわけです。今でこそアメリカとかヨーロッパも増えてきていますが、他方で、AIとかロボットというのは人の労働を代替してしまうので、多くの労働者が失業するのではないかと懸念する議論が欧米では多くみられます。

確かに、いろいろな労働を代替しますが、生産性が上がり、その分、GDPも増えますから、必ず誰かの所得になって購買力が出て、その購買力の中でまた新しいサービスや物への需要が出てきます。

人間が、ロボットで代替できないどんな仕事ができるのか考えると、その多くは、人と人との何らかのふれあい求められるサービス業だと思っています。

宮部 人の情緒に訴えかけるようなところは人の手でやらないといけないですね。

黒田 小説は、まさにそうです。

宮部 結局、小説を含めたさまざまな芸術作品は、受け取る人によって完成するものだと思います。小説も、作者が思っていない読み方をして感動してもらうことがあったり、私も何度くり返し読んでいる本があります。それは何回読んでもおもしろいし、状況が変わると違う読み方をしたり、若いころ読んだものを今読むと、昔はこう思ったけれども今はこうだわとか、味わいが変わるんですね。そういうものをつくり出すのは、まだコンピューターには無理なんだろうなと思います。

黒田 私もそう思います。ある条件をクリアすることを目指す類のものと異なり、小説は、プロット、ニュアンスさらには受け手を含めて組み合わせが無量大です。宮部さんの今後のご活躍も楽しみにしています。

宮部 ありがとうございます。お忙しいと思いますが、今後とも、ミステリーや時代小説の世界をどうぞごひいきにお願いいたします。



貨幣の世界

3

今回はその後の歴史を追いながら、中国をはじめとする東アジアの貨幣の形をみていきたいと思えます。

形 その2 古代から近世の東アジア 後編

永遠の円形方孔

紀元前二二一年、秦が中国を統一すると、秦の採用していた円形に四角い穴の貨幣「半両銭」(写真1)——秦が滅ぼした

魏の貨幣に由来するとも言われます——が、その後二千年間の長きにわたる中国および東アジアの貨幣の形の原型となりました。

この形については、中国人が「天は丸

く、地は四角い」と信じていたこと由来するという説があります。

秦の後に建てられた前漢(紀元前二〇二〜紀元後八年)において、その領土を最大にした第七代皇帝武帝(在位

中国

写真1 半両銭



両は重さの単位で、半両=約8gでした。実は、半両銭の重量は、半両未満のものが多かったようです。

写真2 五銖銭



銖は重さの単位で、24銖=1両でした。

写真3 開元通宝

表



裏



写真5 永楽通宝



明第3代皇帝永楽帝(在位1402~1424年)の時代に鑄造され、室町時代、日明貿易を通じて大量に日本にもたらされたと言われてしています。ちなみに、戦国武将織田信長の旗印にも使われていました。

(写真1~5提供:日本銀行金融研究所貨幣博物館)

写真4 北宋の銅銭 熙寧元宝



北宋第6代皇帝神宗(在位1067~1085年)の時代に発行された銅銭です。12世紀以降、日本に大量に輸入された銅銭の一つです。

その他のアジア諸国

写真9 朝鮮王朝、ベトナム(黎朝)の貨幣



左/朝鮮通宝は、朝鮮王朝(1392～1910年)の第4代国王世宗(在位1418～1450年)の代に、唐の開元通宝に倣って鑄造された銅銭です。ちなみに、世宗は、ハングル(訓正民音)を制定した国王です。

右/洪徳通宝は、大越国(ベトナム)黎朝(後黎朝ともいわれる。1428～1527年、1533～1789年)の第5代皇帝聖宗(在位1460～1497年)によって、洪徳年間(1470～1497年)に鑄造された銅銭です。

(写真7～9提供:日本銀行金融研究所貨幣博物館)

紀元前一四一〜紀元前八七年)の時代、五銖銭(写真2)が発行されました。この貨幣は、後漢、魏晋南北朝、隋と、中国で広く長く受容されました。

そして唐(六一八〜九〇七年)の初代皇帝李淵(在位六一八〜六二六年)の時代、円形方孔の銭「開元通宝」(写真3)が登場しました。世界帝国である唐の圧倒的な影響の下、日本をはじめとす

る周辺諸国は、この「開元通宝」にならって銅銭を鑄造しました。そして、以後約千三百年の長きにわたり、「開元通宝」が、中国および周辺諸国の銅銭の規範となりました(写真4〜9)。

近代に入ると、洋の東西を問わず、貨幣はおおむね円形(円盤)となります。ただ、中には、日本では見慣れない形の貨幣を日常的に使用する国や地域もあります。また、記念貨幣や収集家向け貨幣の場合、その形は極めて多様です。

今回は、近代以降のさまざまな形の貨幣をご紹介します。

日本

写真7 和同開珎(708年発行) 写真6 富本銭



天武天皇の時代(680年代)に、日本で最初に発行された銅銭です。詳細は、本誌2015年春号の「お金の源 第1回銅貨」をご覧ください。

(提供:奈良文化財研究所)

写真8 寛永通宝



平安時代の銅銭製造中止以来、初めて日本の統治者によって製造された銅銭です。寛永年間(1624～1645年)以降も製造されましたが、年号は一貫して「寛永」が使い続けられました。

「新」の王莽の復古政策

前漢と後漢の間、わずか15年で滅びた「新」(8～23年)。漢室の外戚となった王莽が、中国史上初めて禅譲(帝王がその位を世襲せず有徳者に譲ること)を受けて——実質は帝位を奪い取って——建てた国です。新は、その国名に似合わず儒教に基づく復古主義的政策を採用し、孔子の生きた春秋時代さながらに、円貨と刀貨とを合わせた不思議な形の貨幣を発行し、また、五銖銭の使用を禁止しました。しかし、新の貨幣は人々に受け入れられず、他の復古主義的政策と相まって経済・社会が混乱する中、新は王莽一代で滅びました。



新の貨幣(犁刀)
(提供:日本銀行金融研究所貨幣博物館)

「金融広報中央委員会」の仕事

全国規模の調査とイベントで「金融リテラシー」の向上に取り組む

お金についての情報を、もっと暮らしに役立ててほしい——そうしたい思いで活動しているのが、日本銀行の情報サービス局内に事務局を置く「金融広報中央委員会」です。政府、日本銀行、地方公共団体、民間団体等と協力し、中立・公正な立場から「金融経済情報の提供」と「金融経済学習の支援」を行っています。また、各都道府県にある金融広報委員会と協力して、全国規模の活動を行っています。今回は、金融広報中央委員会の最近の活動を紹介します。同委員会では今年初め、二つの大規模な調査を実施し、広く注目を集めました。また、全国各地でさまざまなイベントも企画し、順次開催予定です。それぞれの担当者から詳しい話を聞きます。

全国五万人以上の児童・生徒が回答した「子どものくらしとお金に関する調査」

「今回の調査には、全国二九〇校の小・中・高校のご協力を得て、五万一四九名の児童・生徒に参加いただきました。調査では、お金にまつわる日常生活・意識・行動や、金融経済に関する基本的な知識などについて、子どもたちに無記名で答えてもらいました」

こう話すのは、金融広報中央委員会事務局主査の阿部弥生さん。同委員会が二〇一五年十二月から一六年三月にかけて実施した「子どものくらしとお金に関する調査」を担当し

ました。

金融広報中央委員会では、お金に関する幅広い学習を通じて「生きる力」をはぐくむ教育を「金融教育」と呼び、その充実に力を注いでいます。「子どものくらしとお金に関する調査」は、こうした学校での金融教育の支援活動の参考にすることを目的としています。○五年度に第一回、一〇年度に第二回の調査を実施し、今回、子どもを取り巻く環境の変化などを踏まえ、五年ぶりに三回目の調査を実施しました。

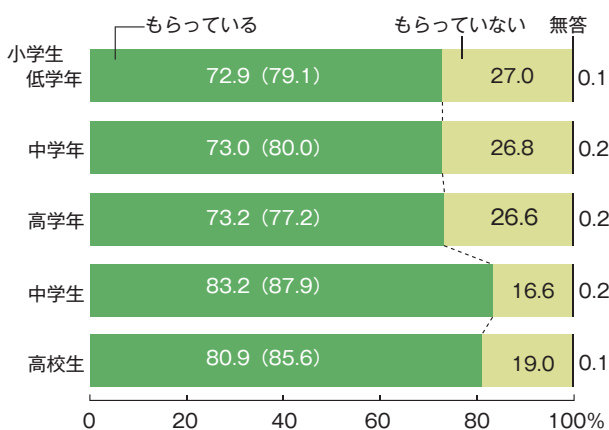
調査の項目は、子どもたちの「おこづかい」「携帯電話・スマートフォン利用」「家の人との会話」「お金に関する意識・知識・行動」

など、多岐にわたります。調査結果を、いくつかピックアップしてみましよう。

「おこづかい」は、小学生の七割強、中学生の八割強、高校生の約八割が「もらっている」と回答しました(図表1)。小学生高学年で最も多い回答は「月に一回」もらう場合で金額は五〇〇円でした。一方、低学年と中学年は「ときどき」もらうという回答が最も多く、金額は一〇〇円でした。また、中学生と高校生では、一カ月のおこづかいの平均値がそれぞれ二五三六円、五一一四円となっています。

携帯電話とスマートフォンの保有者に月額利用料を聞いてみると、中学生で六割以上、

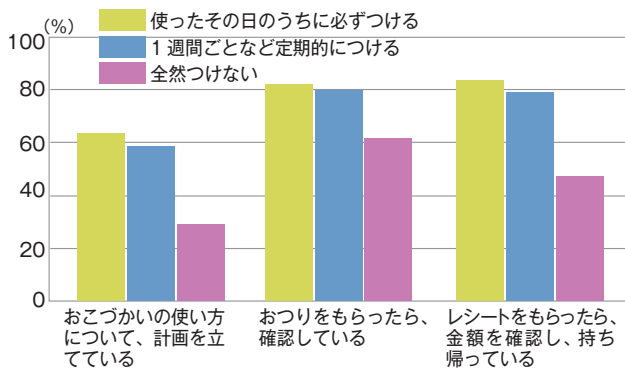
図表 1 おこづかいの有無



(注1) 中学生と高校生の「もらっている」は、「もらっている(定期的)」と「もらっている(必要の都度)」の合計。

(注2) () 内は、前回調査(平成22年度)の結果。

図表2 お金に関する行動とおこづかい帳の記帳(中学生)



「その結果、例えば、おこづかい帳をつける習慣を持つ子どもは、『おこづかいの使い方について、計画を立てている』『おつりをももらったら、確認している』『レシートをもらったら、金額を確認し、持ち帰っている』と回答する割合が高く、お金を扱う上で望ましい行動をとる子どもが多いようです(図表2)。

高校生でも約五割が「わからない」と回答。家の人とお金のことについて話をするかに関しては、中学生は四割以上、高校生では三割以上が「ほとんど話をしない」「一度も話をしたことがない」との回答になりました(調査結果の詳細は、金融広報中央委員会のウェブサイトに「知るぼると」に掲載)。

また、調査では、一つひとつの設問への回答を単純に集計したのではなく、ある設問での回答と、別の設問での回答との関連性がわかるように「クロス分析」も行っています。阿部さんは「今回の調査では、子どもたちのお金の管理の方法が、日常生活での行動とどう結びついているかについて注目しました」と説明します。

また、家の人と、自分がつきたい仕事や将来のこと、お金のことなどを『ほぼ毎日話をする』と回答した子どもも、望ましい行動をとる傾向にあります。

金融広報中央委員会では、これまでもオピニオナルのおこづかい帳を全国の小学校に無償で配布しており、それを用いた金融教育を推奨しています。生活設計や家計管理は、金融教育の四つの分野の柱の一つであり、学校で学習する内容に含まれています。子どもたちが「おこづかい帳の記帳」に取り組み、家の人と仕事・将来・お金の話をすることは、お金に関して望ましい行動をとる方向に、子どもたちの日常生活を無理なく導いているのかもしれません。調査結果から、金融教育の有効性・必要性が読み取れるようです。

調査に協力してくれた学校には、全体のデータのほか、その学校の集計値も還元されています。阿部さんは「それぞれの学校の子どもたちのくらしとお金に関する現状を、先生方は数字でわかりやすく把握することができ、データを活用して、金融教育を更に効果的に進めていただきたい」と話しています。

金融教育に対する理解を深める「公開授業」と「金融教育フェスタ」の取り組み

金融広報中央委員会は「金融教育」という言葉を○三年から用いています。かつては、

「ものやお金を大切に。勤労を学ぶ」ことを教える「金銭教育」を推進していましたが、世の中の変化とともに、「金融・経済への理解を深める」ことを重視する「金融教育」という言葉を使うようになりました。「当初は金銭教育の方が取り入れやすいとの声を伺いましたが、ここ数年で金融教育が必要だという声は着実に増えてきています」と、同委員会事務局金融教育プラザリーダーの岡崎竜子さんは指摘します。

「小学校の教科書にも学習指導要領にも金融という言葉は出てこない、とおっしゃっていた校長先生が、金融教育の実践を進めるなかで非常に充実した取り組みをしてくださったケースもありました。子どもたちの反応がよかったという面もあるかもしれません。実際、お金や経済に関わる実社会の素材を学習に取り入れると子どもたちの反応がすごくいい、と多くの先生方がおっしゃいます。子どもたちは、お金や現実の経済に関することを学んでみたいと思っているのです」

金融広報中央委員会は○七年、文部科学省をはじめ学校関係者の協力を得ながら『金融教育プログラム』を作成しました。今年二月には全面改訂し、全国の学校に無償で送っています。『プログラム』は二〇〇ページ以上もある冊子ですが、中を開くと、小学校の低・中・高学年、中学・高校の各段階で、どのような内容をどのような順序で学習すれば



金融・経済に関する知識や考える力が身につくのかということが、実践事例とともに書かれています。学習指導要領には「金融教育」の言葉こそ載っていませんが、金融教育にかかわる内容は多くの教科に含まれており、通常の教科の指導の中でも十分実践できるので

す。
とはいえ、各教科にはそれ自体の目標があり、金融教育に関連づけて指導をするためには工夫が必要です。そこで、金融広報中央委員会では、全国の小・中・高校で「金融教育公開授業」を実施しています。岡崎さんはこう話します。

「学校で実践される金融教育関連の授業を、教育関係者、保護者、地域住民など多くの方々に参観していただきたい。開催校の先生方がどんな工夫を凝らしているか、子どもたちがいかに生き活きと学んでいるかがわかります。公開授業

を通じ、多くの関係者の方々に学校での金融教育に対する理解を深めていただくことを期待しています」

一六年度の金融教育公開授業は九月二十八日



お金の体験学習「カレー作りゲーム」の様

の香川県綾川町立陶小^{すえ}学校を皮切りに、全国二二都道府県の二四校で開催予定です（詳細は「知るぽると」サイトに掲載）。各校では、金融教育の専門家などによる講演会も併せて実施されることになっています。

このような学校での金融教育への支援活動だけでなく、学校外に学びの場を設ける活動も、金融広報中央委員会は行っています。「自分のお金にもお金について教えたければ、通わせている学校では金融教育が実践されていない」という保護者の声も少なくないようです。学校内にとどまらず、より広く金融教育を実践していくことを目的に、大規模なイベントも開催します。

今年度は一六年十一月二十六日（土）に広島国際会議場で、また、一七年一月十四日（土）には沖縄コンベンションセンターで「金融教

育フェスタ」を開催します。フェスタでは、小学生の低・中学年を対象とした「お金の体験学習——カレー作りゲーム」など、参加型のさまざまなプログラムを実施します。同時に「先生のための金融教育セミナー」も実施し、学校で効果的に金融教育を進めるにはどうしたらいいか、その手掛かりを基調講演や実践発表、ワークショップなどを通じて提供する予定です。

「金融リテラシー」に関する初めての大规模調査を実施

最近では、NISA（少額投資非課税制度）の導入や確定拠出年金制度改正の動きなど、個人のお金に関する制度がいろいろ変わり始めてきています。このため、安心して生活していくには、「お金に関する知識や判断力」（金融リテラシー）を高めていく必要があります。

金融広報中央委員会は今年二〇一三年、全国の個人を対象に「金融リテラシー調査」を実施しました。金融リテラシーに関する、わが国初の大規模調査です。調査を担当した同委員会事務局企画役の川村憲章^{のりあき}さんはこう説明します。

「調査の設問は、家計管理、生活設計、金融・経済、投資などの分野について知識や行動特性などを問う内容となっています。インターネットを通じて調査を行い、日本の人口の都

図表3 金融リテラシー・マップの分野別正答率

金融リテラシー・マップの分野	正答率(%)	
家計管理	51.0	
生活設計	50.4	
金融知識	金融取引の基本	72.9
	金融・経済の基礎	48.8
	保険	52.5
	ローン・クレジット	53.3
	資産形成	54.3
外部の知見活用	65.3	
合計	55.6	

（図表3）。世代別にみますと、一八〜二九歳が最も低く、年齢とともに上昇し、六〇代が最も高くなりました。また、金融トラブルの経験者の割合は、正答率が高いほど低くなる傾向となりました。このように金融の知識を高めていくことには、大きな意義があります。実際、金融教育を受けた人は正答率が高いだけでなく、金融商品購

入時に他の金融機関や商品と比較するなどの望ましい金融行動をとる人の割合も高くなっています（図表4）。

都道府県別に正答率をみると、最も高い県と低い県で一〇％強の差がみられるなど、地域別なばらつきが確認できました。正答率の高い県をみますと、「緊急時に備えた資金を確保している人」の割合が高くなっています。また、米国と日本を比較すると、社会の状況や教育制度等が異なるため、幅を持ってみる必要がありますが、共通の正誤問題について日本の正答率は米国を一〇％下回りました。

川村さんは「金融教育を受けた人のリテラシーの高さに注目した」と話します。

「この調査で金融教育が金融リテラシーの向上に寄与していることが分かりました。しかし、『金融教育を実際に受けた』と回答した人は全体の約七％にとどまりました。これからは、より広範に、かつ各年齢層の重点課題を念頭に置きながら、実践的な教育を行うことが必要だと考えています」

金融広報中央委員会では調査結果の報告書と統計表を「知るぽると」サイトに掲載しているほか、二万五〇〇〇人が調査にどう回答したのかがわかる個票データについても、個人情報伏せをうけて、学術的な研究のためであれば貸し出すことにしています。川村さんは「調査で得られたデータを使って、さまざまな研究や議論が行われることを通じて、

冒頭の「子どものくらしとお金に関する調査」、そして「金融リテラシー調査」がともに結果で示したのは、お金に関する知識や望ましい行動特性などを身につけていくうえで金融教育が有効かつ必要ということでしょう。金融広報中央委員会の蔵本雅史主任企画役は「一般の方々の中には、これまで金融について十分に学ぶ機会がなかった方がいらっしやると思います。それだけに今後は、子どもから社会人まで、各層のニーズに合った実践的な金融広報活動を行っていききたい。国民一人ひとりの金融リテラシーが向上すれば、結果として世の中全体もより活力あるものになるはずですよ」と話しています。

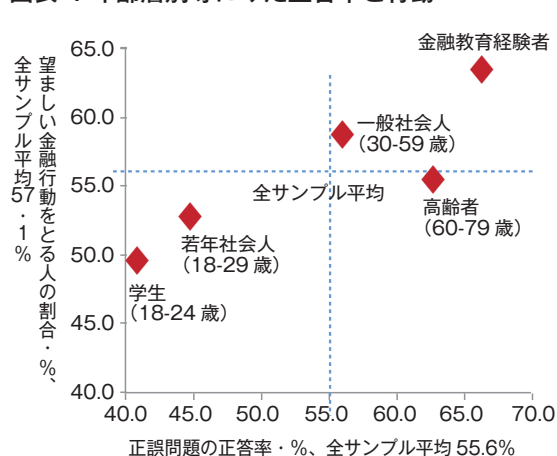
道府県別、年代別、男女別構成比とほぼ同じ割合になるように全国二万五〇〇〇人のデータを収集しました。その結果、『ミニ・ジャパン』とも言える大規模データが構築され、多様な観点で分析することが可能になっています」

具体的には、「一〇〇万円を年率二％で預金すると、五年後の残高はいくらか」など、金融知識に関する正誤問題と、「借入れに際して他の金融機関と比較したか」など、個人の行動特性に関する問題を組み合わせた内容となっています。また、約半数の設問については、米国などでの同種の調査と比較できる内容にした点も特徴です。

調査結果は、いずれも興味深い内容です。正誤問題の正答率は五五・六％。分野別では、「金融取引の基本」の正答率が最も高く、「金融・経済の基礎」が最も低くなりました

（図表3）。世代別にみますと、一八〜二九歳が最も低く、年齢とともに上昇し、六〇代が最も高くなりました。また、金融トラブルの経験者の割合は、正答率が高いほど低くなる傾向となりました。このように金融の知識を高めていくことには、大きな意義があります。実際、金融教育を受けた人は正答率が高いだけでなく、金融商品購

図表4 年齢層別等に見た正答率と行動



金融教育がますます活発に行われるようになってほしい」と言います。



日本銀行のレポートから

日本銀行は、1月、4月、7月および10月の政策委員会・金融政策決定会合において、先行きの経済・物価見通しや上振れ・下振れ要因を詳しく点検し、そのもとでの金融政策運営の考え方を整理した「経済・物価情勢の展望」（展望レポート）を決定し、公表しています。本稿では、2016年7月の展望レポート（基本的見解は7月29日公表、背景説明を含む全文は7月30日公表）のポイントを解説します。

*全文は日本銀行ホームページに掲載されています。<http://www.boj.or.jp/mopo/outlook/index.htm/>

「経済・物価情勢の展望」（展望レポート）

— 二〇一六年七月 —

二〇一六～二〇一八年度の 中心的な見通し （図表1・2）

【景気】

暫くの間、輸出・生産面に鈍さが残り、景気回復ペースの鈍化した状態が続くとみられる。その後は、家計・企業の両部門において所得から支出への前向きな循環メカニズムが持続するも、国内需要が増加基調をたどるとともに、輸出も、海外経済が減速した状態から脱していくにつれて、緩やかな増加に向かうことから、わが国経済は、基調として緩やかに拡大していくと考えられる。

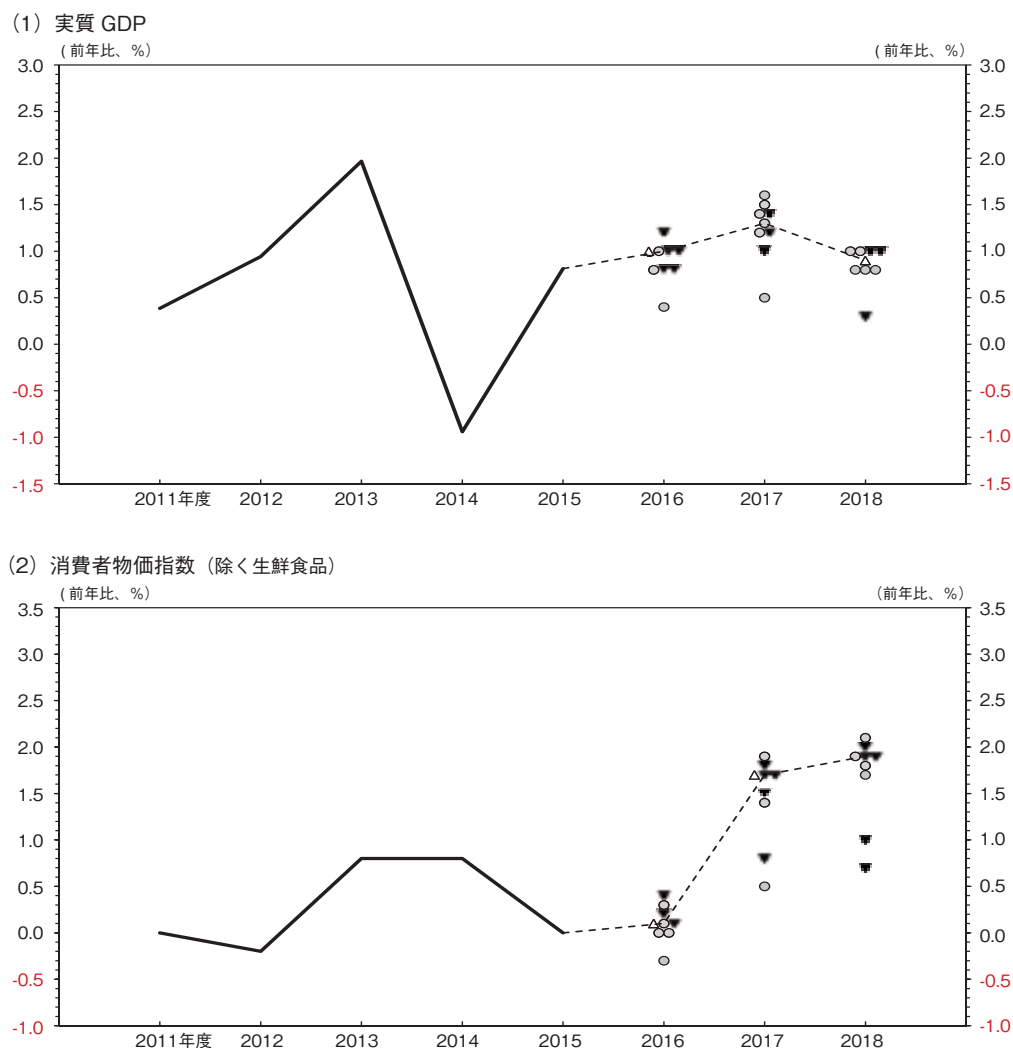
【物価】

消費者物価の前年比は、エネルギー価格下落の影響から、当面小幅のマイナスないし0%程度で推移するとみられるが、物価の基調は着実に高まり、2%に向けて上昇率を高めていくと考えられる。「物価安定の目標」である2%程度に達する時期は、原油価格が現状程度の水準から緩やかに上昇していくとの前提のもとでは、中心的な見通しとしては二〇一七年度中になるとみられるが、先行きの海外経済に関する不透明感などから不確実性が高い。その後は、平均的にみて、2%程度で推移すると見込まれる。

金融政策運営

2%の「物価安定の目標」の実現を目指し、これを安定的に持続するために必要な時点まで、「マイナス金利付き量的・質的金融緩和」を継続する。今後とも、経済・物価のリスク要因を点検し、「物価安定の目標」の実現のために必要な場合には、「量」・「質」・「金利」の三つの次元で、追加的な金融緩和措置を講じる。

図表 1 政策委員の経済・物価見通しとリスク評価



(注1) 実線は実績値、点線は政策委員見通しの中央値を示す。

(注2) ○、△、▼は、各政策委員が最も蓋然性が高いと考える見通しの数値を示すとともに、その形状で各政策委員が考えるリスクバランスを示している。○は「リスクは概ね上下にバランスしている」、△は「上振れリスクが大きい」、▼は「下振れリスクが大きい」と各政策委員が考えていることを示している。

(注3) 消費者物価指数 (除く生鮮食品) は、消費税率引き上げの直接的な影響を除いたベース。

図表 2 政策委員見通しの中央値 (対前年度比、%)

	実質 GDP	消費者物価指数 (除く生鮮食品)	消費税率引き上げの影響を除くケース
2016 年度	+ 1.0	+ 0.1	
(4 月時点の見通し)	(+ 1.2)	(+ 0.5)	
2017 年度	+ 1.3	+ 1.7	
(4 月時点の見通し)	(+ 0.1)	(+ 2.7)	(+ 1.7)
2018 年度	+ 0.9	+ 1.9	
(4 月時点の見通し)	(+ 1.0)	(+ 1.9)	

(注1) 原油価格 (ドバイ) については、1 バレル 45 ドルを出発点に、見通し期間の終盤である 2018 年度にかけて 50 ドル程度に緩やかに上昇していくと想定している。その場合の消費者物価 (除く生鮮食品) の前年比に対するエネルギー価格の寄与度は、2016 年度で -0.6 ~ -0.7% ポイント程度と試算される。また、寄与度は、2016 年度後半にマイナス幅縮小に転じ、2017 年度初に概ねゼロになると試算される。

(注2) 4 月時点の見通しでは、消費税率について、2017 年 4 月に 10% に引き上げられることを前提として、各政策委員は、消費税率引き上げの直接的な影響を除いた消費者物価の見通し計数を作成した。今回の展望レポートでは、政府が 6 月 2 日に閣議決定した「経済財政運営と改革の基本方針 2016」の中で、2017 年 4 月に予定されていた消費税率の引き上げを 2019 年 10 月まで 2 年半延期する方針が示されているため、その方針を踏まえて見通しを作成している。



日本銀行のレポートから

日本銀行では、年4回（1月、4月、7月、10月）、全国32支店の支店長などが本店に集まり、総裁以下全役員と「支店長会議」を開きます。支店長会議の場では、全国の支店長などが、経済指標の分析や企業等への面談調査等を通じて収集した情報をもとに、各地域の経済金融動向等について報告・討議します。こうした分析・情報に基づく各支店などからの報告を支店長会議にあわせて集約したものが「地域経済報告」（さくらレポート）です。全国を9地域に分け、景気情勢に関する報告を集約した「地域からみた景気情勢」と、その時々々のタイムリーなトピックを採り上げ企業等の生の声を収集・整理した「地域の視点」、全国9地域の金融経済概況、参考計表で構成されています。

*全文は日本銀行ホームページに掲載されています。http://www.boj.or.jp/research/brp/rer/index.htm/

「地域経済報告」（さくらレポート）

— 二〇一六年七月「抜粋」 —

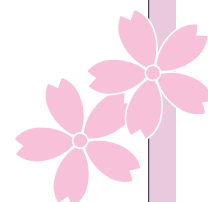
I. 地域からみた景気情勢

各地の景気情勢を前回（一六年四月）と比較すると、中国から、生産面等で一部に弱めの動きがみられるとして、また、九州・沖縄から、熊本地震の影響がみられるとして、それぞれ判断を引き下げる報告があった。一方、残り七地域では、景気の改善度合いに関する判断に変化はないとしている。

各地域からの報告をみると、東海で、「基調としては緩やかに拡大している」としており、七地域（除く東海、九州・沖縄）で、「基調としては緩やかな回復を続けている」「緩やかに回復している」「回復を続けている」等としている。この背景としては、新興国経済の減速に伴う影響などから輸出や生産面に鈍さがみられるものの、国内需要は、設備投資が緩やかな増加基調にあり、個人消費も、一部に弱めの動きもみ

	【16/4月判断】	前回との比較	【16/7月判断】
北海道	緩やかに回復している	➡	緩やかに回復している
東北	新興国経済の減速に伴う影響などから生産面で弱含んだ状態が続いている中、基調としては緩やかな回復を続けている	➡	生産面に新興国経済の減速に伴う影響などがみられるものの、基調としては緩やかな回復を続けている
北陸	回復を続けている	➡	一部に鈍さがみられるものの、回復を続けている
関東甲信越	輸出・生産面に新興国経済の減速に伴う影響などがみられるものの、緩やかな回復を続けている	➡	輸出・生産面に新興国経済の減速に伴う影響などがみられるものの、緩やかな回復を続けている
東海	自動車関連での生産停止の影響から輸出・生産が一時的に減少したとみられるものの、基調としては緩やかに拡大している	➡	自動車関連での工場事故や熊本地震の影響から輸出・生産面で振れがみられるものの、基調としては緩やかに拡大している
近畿	輸出・生産面に新興国経済の減速の影響がみられるものの、緩やかに回復している	➡	輸出・生産面に新興国経済の減速の影響がみられるものの、緩やかに回復している
中国	緩やかに回復している	➡	一部に弱めの動きがみられるものの、緩やかな回復基調を続けている
四国	緩やかな回復を続けている	➡	緩やかな回復を続けている
九州・沖縄	新興国経済の減速などの影響を受けながらも、緩やかな回復を続けている	➡	熊本地震の影響により急速に下押しされた後、観光面などで弱い動きが続いているものの、供給面の制約は和らいできており、緩やかに持ち直している

(注) 前回との比較の「➡」、「➦」は、前回判断に比較して景気の改善度合いまたは悪化度合いが変化したことを示す(例えば、改善度合いの強まりまたは悪化度合いの弱まりは、「➡」)。なお、前回に比較し景気の改善・悪化度合いが変化しなかった場合は、「➡」となる。



られるが、雇用・所得環境の着実な改善を背景に、底堅く推移していることなどが挙げられている。この間、九州・沖縄では、「熊本地震の影響により急速に下押しされた後、観光面などで弱い動きが続いているものの、供給面の制約は和らいできており、緩やかに持ち直している」としている。

公共投資は、九州・沖縄から、「持ち直しに転じつつあり、熊本地震の復旧工事もみられている」との報告があった。また、三地域（北海道、近畿、四国）から、「下げ止まっている」等、北陸から、「持ち直しに転じている」、東北から、「高水準で推移している」、関東甲信越から、「増加している」との報告があった。一方、東海、中国から、「高水準ながらも、減少傾向にある」等の報告があった。

設備投資は、北陸、東海から、「着実に増加している」、「大幅に増加している」、五地域（東北、関東甲信越、近畿、中国、四国）から、「緩やかに増加している」、「増加基調にある」、「増加している」との報告があったほか、北海道から、「高水準で推移している」との報告があった。この間、九州・沖縄から、「高水準で推移しているが、

熊本地震の影響により、一部に投資の先送りや維持・補修投資の実施など上下双方の動きがみられている」との報告があった。

この間、企業の業況感については、北海道から、「改善している」、北陸から、「足もととは総じて良好な水準を保っているものの、先行きは慎重な見方が増えている」との報告があった。一方、九州・沖縄から、「熊本地震の影響などもあって、製造業・非製造業ともに悪化している」、中国から、「幾分慎重化しており、一部では悪化の動きもみられる」、三地域（東北、東海、近畿）から、「幾分慎重化している」、関東甲信越、四国から、「総じて良好な水準を維持しているが、一部にやや慎重な動きもみられている」等の報告があった。

個人消費は、雇用・所得環境が着実な改善を続けていること等を背景に、北海道から、「回復している」、四国から、「緩やかに持ち直している」との報告があった。また、六地域（東北、北陸、関東甲信越、東海、近畿、中国）から、「一部に弱めの動きもみられる」等として、「持ち直している」、「底堅く推移している」、「全体としては堅調に推移している」等の報告があった。この間、

九州・沖縄から、「全体として弱めの動きとなっている」との報告があった。

百貨店販売額をみると、「底堅く推移している」等の報告があった一方、「高額品を中心に前年を下回っている」、「このところ弱めの動きとなっている」等の報告があった。また、スーパー販売額は、「改善の動きが続いている」、「堅調に推移している」等の報告があった。このほか、コンビニエンスストア販売額は、「堅調に推移している」、「増加している」等の報告があった。

乗用車販売は、「前年を下回っている」等の報告があった一方、「横ばい圏内で推移している」、「底堅く推移している」等の報告があった。

家電販売は、「前年を下回っている」、「弱めの動きとなっている」等の報告があった一方、「底堅く推移している」、「持ち直している」、「緩やかに回復している」等の報告があった。

旅行関連需要は、「弱めの動きとなっている」との報告があった一方、「国内旅行を中心に底堅く推移している」、「国内旅行を中心に堅調となっている」等の報告があった。この間、外国人観光客は、引き続き「増加している」との報告があった一方、「熊本地震によ

る観光地の被災や消費者マインドへの影響などから、熊本県や大分県を中心に、国内・外国人観光客ともに大幅に落ち込んだ状態が続いている」との報告があった。

住宅投資は、四国から、「このところ持ち直しに向けた動きが一服している」との報告があった一方、東北から、「高水準で推移している」との報告があったほか、七地域（北海道、北陸、関東甲信越、東海、近畿、中国、九州・沖縄）から、「緩やかに持ち直している」、「持ち直している」等の報告があった。

生産(鉱工業生産)は、新興国経済の減速に伴う影響などから、五地域（東北、関東甲信越、近畿、中国、四国）から、「持ち直しが一服している」、「横ばい圏内の動きが続いている」等の報告があった。一方、三地域（北海道、北陸、東海）から、「高水準を保っている」、「緩やかに増加している」等の報告があった。この間、九州・沖縄から、「熊本地震の影響により大幅に減少した後、生産設備の復旧や代替生産の進捗などから、増加に転じている」との報告があった。主な業種別の動きをみると、輸送機械は、「軽自動車関連が減少する中、

全体としては高めの水準となっている。「工場事故や熊本地震の影響による振れを伴いつつも、基調としては緩やかに増加している」等の報告があった一方、「減少している」「横ばい圏内の動きとなっている」等の報告があった。また、はん用・生産用・業務用機械、電子部品・デバイス、電気機械は、「熊本地震により操業を停止した先で生産活動を再開する動きなどがみられており、持ち直しに転じている」、「高水準で推移している」、「全体としては緩やかに増加している」等の報告があった一方、「一部で減産の動きがみられている」、「一部に弱めの動きがみられる」等の報告があった。この間、化学は、「増加に転じている」、「緩やかに増加している」等の報告があった。このほか、鉄鋼は、「減産を緩和する動きもみられる」等の報告があった。

雇用・所得動向は、多くの地域から、「改善している」等の報告があった。

雇用情勢については、多くの地域から、「労働需給が着実な改善が続いている」、「引き締まっている」等の報告があった。雇用者所得についても、多くの地域から、「着実に改善している」、「緩やかに増加している」等の報告があった。

II. 地域の視点

「各地域における消費関連企業の販売動向と販売戦略・価格設定行動」

1. 消費関連企業の最近の販売動向

(1) 全体感

各地域における消費関連企業の販売動向をみると、汎用的な商品・サービスに対する消費者の節約志向が幾分強まっているほか、高額品の売上にも陰りがみられるなど、このところ一部に弱めの動きがみられる。もともと、雇用・所得環境が改善を続けるもとで、多様化する消費者ニーズを着実に捉えて売上を伸ばしている企業も相応にみられ、全体としては底堅く推移している。

主要業態別には、百貨店は、衣料品の不振が続く中、高級時計や宝飾品等の販売に陰りがみられ、本年入り後、売上が前年を下回る先が多い。家電量販店は、パソコン等の情報通信機器を中心に幾分弱めの動きとなっている先が多いほか、自動車販売店も、新形車などの販売は堅調ながら、軽自動車を中心に全体では引き続き勢いを欠く状況にある。

一方、食品スーパーは、総じて堅調に推移している先が多いほか、コンビニ

ニエンスストアも、新規出店や新商品投入の効果等から緩やかに増加している。また、宿泊は、観光客数が高水準なことや客単価の改善から好調な先が多いほか、ドラッグストアなど低価格訴求型の業態も、堅調に推移している先が少なくない。さらに、総合スーパーや飲食は、消費者のニーズを捉えた価格・品質での商品・メニューを提供している先を中心に、底堅く推移している。

この間、熊本地震の影響については、熊本・大分両県を中心に、観光産業のほか、飲食等では依然厳しい状況が続いている一方、家電量販店やホームセンター等では、復興需要を背景に売上が伸びている先が多い。

(2) 今年前半の弱めの動きの背景

今年前半の販売動向を振り返ると、雇用・所得環境が改善を続ける中、一部に弱めの動きがみられた。その背景として、企業からは、天候要因等の影響に加えて、以下のような声が聞かれた。

①株価下落に伴う逆資産効果の顕在化
都市圏の百貨店や専門店を中心に、年初来の株価下落等を背景に、高級時計や宝飾品等に対する富裕層・高所得者層の支出姿勢が弱まっているとの指摘が聞かれた。

②訪日外国人需要の増勢鈍化

都市圏の百貨店、家電量販店等からは、ウエイトが大きい中国人向けを中心に、本年入り後の為替円高の進行や同国の関税強化等を背景に、高額品の販売や大量購入の動き等が鈍化しているとの指摘が聞かれた。

③先行きの景気等に対する悲観的な見方の増加
百貨店や食品スーパーを中心に、先行きの景気情勢や社会保障負担の増加等に関する悲観的な見方が増加していることに伴い、シニア層から若年層まで余分な出費を手控える動きが幅広くみられるとの声が多く聞かれた。

④需要の先喰いや燃費不正問題の発生
自動車販売店等を中心に、前回の消費税率引き上げ前の駆け込みや各種需要喚起策に伴う需要の先喰いのほか、燃費不正問題の発生が、足もとの販売不振に繋がっているとの指摘が聞かれた。

2. 消費関連企業の販売戦略・価格設定行動

(1) 販売戦略

消費関連企業では、①多様化する消費者ニーズに対応した新商品・サービスの投入、②消費意欲が比較的旺盛な

シニア層や女性層、訪日外国人客の需要取り込み、③各種イベント開催、カフェ併設などの店舗改修、会員向けサービスの充実等による顧客との接点拡充、④域外を含めた新規出店の強化、⑤Eコマースや宅配サービスの展開等を通じて販売チャネルの拡充などに、これまで以上に注力する先が多い。

ここにかけての新たな試みとして、異業種企業との連携が広がりを見せ始めている。一方、ビッグデータを活用する動きも一部にみられるが、現時点で広がりはなく、なお拡大の余地がある。

② 価格設定行動

消費関連企業の価格設定行動をみると、最近の選別消費・メリハリ消費の一段の強まりから、昨年みられた値上げや値引き販売抑制の動きが弱まっている。そうしたもとで、従来よりも品質や付加価値を高めた商品・サービスを拡充しつつ価格引き上げを実施する動きと、汎用的な商品を中心にした低価格戦略を強化する動きの双方に広がりが見られている。

価格引き上げの具体的な動きとしては、宿泊やレジャー施設等、需要が拡大している業態で、サービス内容の充実等を図りながら人件費等の増加分を吸収する

ための値上げに踏み切る先がみられる。

一方、低価格戦略を強化する動きとしては、食品スーパーや飲食等で、低価格品の品揃えを強化したり、価格を据え置く先が増えている。これらの中には、加工食品や日用品等の価格を低めに抑える一方、高品質の生鮮食品では値上げを行うなど、品目やサービスに応じて従来以上にきめ細かな価格設定に注力し、消費者の節約志向を上手く捉えて売上を伸ばす先もみられる。もともと、為替円高の進行に伴い原材料価格の上昇傾向に一服感がみられる中、更なる値上げによって消費者がより低価格帯の商品・サービスを提供する業態・店舗へ流出することを懸念する先も少なくない。

3. 先行きの見通し

消費関連企業の先行きの販売については、雇用・所得環境の改善が見込まれるもとで、夏季商戦に期待する声が聞かれるほか、消費者ニーズの掘り起こしや訪日外国人客の需要獲得に向けて積極的に取り組む先も多く、基調としては底堅さを維持するものとみられる。この間、為替円高や株安の一段の進行など、足もとの金融市場の不安定

な動き等を踏まえ、消費者マインドの更なる慎重化を懸念する声も聞かれている。

【補論】

熊本地震の発生に伴う消費関連企業への影響

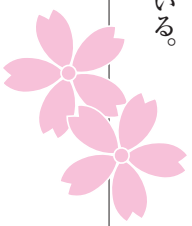
四月中旬に発生した熊本地震による消費関連企業への影響をみると、熊本・大分両県を中心に、観光産業のほか、飲食等では依然厳しい状況が続いている。他方、家電量販店やホームセンターでは、復興需要を背景に売上を大きく伸ばしているほか、店舗営業の再開につれて、食品スーパー等も持ち直している。この間、コンビニエンスストア、ドラッグストア等の業態は、被災後早い段階から、底堅い販売が続いている。

販売面からやや詳しくみると、最大の被災地である熊本県内では、被災後暫くの間は、店舗の休業等による供給制約、余震の継続やイベント・宴会の自粛等を背景に、消費関連企業の販売は大きく減少した。もともと、五月の連休明け頃からは、営業を再開する店舗が増えたほか、物流も徐々に正常化に向かうなど、供給面での制約が緩和した。そこに、家具や家電等の生活再建に向けた復旧・復興需要も徐々に顕

在化したことで、販売面では最悪期を脱し、全体として持ち直している。また、大分県内では、地震の影響から徐々に持ち直しの動きもみられるものの、飲食等では依然として震災前の水準を下回っている先がみられる。

次に、観光面をみると、熊本県では、熊本城等の観光資源が甚大な被害を受けたうえ、阿蘇地区等では交通インフラが寸断されたため、観光客数は落ち込んでいる。震災の被害が少ない天草や人吉等の観光地でも、観光産業は大きな打撃を受けている。こうした影響は、程度の差はあれ、大分県をはじめ九州全域に及んでおり、宿泊業のほか、土産店やレジャー産業等に広く波及している。

先行きについては、大型ショッピングセンター等の営業再開が更に進むと見込まれるなど、供給面での制約が一段と和らぎ、復旧・復興需要の更なる顕在化を通じ、販売面では回復基調を辿ると予想される。また、観光面については、余震や長雨が続いていることもあり、震災前の水準に復するには、暫くの間、時間を要するとの見方が多く聞かれるものの、官民の観光振興策が九州観光の回復を後押しすることへの期待が高まっている。



金融高度化セミナー （再チャレンジ支援）を開催

▼日本銀行金融機構局金融高度化センターは、二〇一六年六月三十日に、「再チャレンジ支援―事業再生・廃業支援―」と題する金融高度化セミナーを開催しました。参加者数は約四六〇名でした。



再チャレンジ支援の現状と課題について語る石賀企画役



転・廃業支援に関する取り組みについて語る静岡銀行・中西頭取

▼今回のセミナーでは、林新一郎金融高度化センター長の開会の挨拶に続き、石賀和義企画役による再チャレンジ支援の現状と課題についての説明がありました。また、静岡銀行・中西勝則頭取からは転・廃業支援に関する静岡銀行の取り組み、福島銀行・森川英治社長からは倒産等経験者を対象とした投資ファンド（「福活ファンド」）に関する講演が行われました。

▼パネル・ディスカッション（モデレータは山口省藏副センター長）では、地域経済活性化支援機構・廣瀬泰文執行役員が廃業支援のサポート業務について説明したほか、東京ベイ信用



福活ファンドについて語る福島銀行・森川社長

再チャレンジ支援の課題について議論されたパネル・ディスカッション



金庫・市原裕彦地域サポート部長がM&Aと経営者保証ガイドラインを活用した事業再生事例について紹介しました。また、北海道銀行・佐々木宏之融資部債権管理室上席融資役は特定調停を活用した経営者保証の整理について説明しました。さらに、福島銀行・佐藤俊彦執行役員は、経営者に再生・廃業に踏み切っ

てもらう上での苦労等について話されました。

▼参加者からは、「他金融機関の事例紹介が豊富で参考になった」「経営者の熱い思いや意気込みに感銘した」といった声が聞かれました。

▼以上のセミナーの講演およびパネル・ディスカッションの要旨・資料は、日銀HPの「金融システム」↓「金融高度化センター」のコーナーをご覧ください。

「日銀夏休み子ども特別見学会二〇一六」を開催

▼「日銀って何をしているところ？」のようなお子さまの好奇心にお応えするため、日本銀行本店では、八月一日（月）～五日（金）に「日銀夏休み子ども特別見学会二〇一六」（協力：金融広報中央委員会）を開催しました。

▼ご参加いただいた皆様には、国の重要文化財に指定されている本館や実際に窓口業務を行っ

編集後記

■今回から、広報誌「にちぎん」の編集に本格的に参画しました。この編集活動を通じて、最も感じたことは、日本の中には素晴らしい前向きな可能性がまだまだたくさんあるということでした。小説家・宮部みゆき氏と黒田総裁との対談に同席しましたが、お二人が小説を読むことの素晴らしさについて目を輝かせて語り合っていた光景は、多くの読者に是非ともお伝えしたいものでした。羽生善治棋士へのインタビューでは、人間とコンピューターとの融合の可能性について、大変前向きなお話を聞かせていただきました。さらに、人気コンテンツである「地域の底力」では、山形県鶴岡市の豊かな食文化を伝承し続ける地元の人々の情熱、前向きな探究と行動などが伝われば嬉しいと思いました。デフレ脱却には、日本社会にそこはかとなく蔓延している悲観的で後ろ向きな見方、考え方を、良い意味で楽観的で前向きなものに転換させるという意味合いもあると思います。広報誌「にちぎん」では、今の日本に確実に存在する楽観的で前向きなモノの見方、考え方をお伝えしていきたい、という思いをますます強くしています。(鶴海)

※本誌は、全国の日本銀行本支店および貨幣博物館、旧小樽支店金融資料館等でお配りしています。個人の方の定期購読、郵送はお取り扱いしておりませんのでご了承ください。なお、既刊号全文をPDFファイル形式で日本銀行ホームページ上に掲載していますのでご利用ください。

(http://www.boj.or.jp/announcements/koho_nichigin/index.htm/)

※本誌に掲載している内容は、必ずしも日本銀行の見解を反映しているものではありません。日本銀行の政策・業務運営に関する公式見解等については、日本銀行ホームページ (<http://www.boj.or.jp/>) をご覧ください。

にちぎん 2016年秋号
編集・発行人 鶴海誠一
発行 日本銀行情報サービス局
〒103-8660
東京都中央区日本橋本石町2-1-1
☎ 03-3277-2405



デザイン 株式会社市川事務所
印刷 文唱堂印刷株式会社
©日本銀行情報サービス局 禁無断転載

*本誌の用紙は、環境・社会・経済のすべての側面に配慮した厳しい基準に従って適切に管理された森林からの木材を原料としていることを示す、FSC認証紙を使用しています。

ている新館営業場などを見学していただきました。その後の体



8月3日には黒田総裁がサプライズで登場しました
(撮影：野瀬勝一)

▼また、中学生を対象に、ご好評により今回で四回目となる「金融政策を決めるのは、君だ！」を実施しました。グループに分かれて架空の経済ニュースをもとに景気・物価とそれを踏まえた金融政策について議論し、最後には、実際の金融政策決定会合同様に、議長が政策

を提案、メンバーの多数決で決定しました。少々難しい課題でしたが、活発に意見が交わされ、参加者からは「金融政策がどんな風に決められているのか分かり、勉強になった」「これからはニュースなどを見て、景気などについて考えてみようと思った」との声が聞かれました。▼ご好評をいただいているこちらの見学会の次回の開催は、春休み期間中を予定しています。どうぞご期待ください。



議論の末、子ども政策委員が採択した金融政策は？



にちぎん